

平成30年6月11日

1. 出席議員

議長 杉原豊喜  
1番 坂口正勝  
3番 猪村利恵子  
5番 江口康成  
7番 上田雄一  
9番 吉川里己  
11番 松尾陽輔  
13番 石橋敏伸  
15番 松尾初秋  
18番 牟田勝浩

副議長 川原千秋  
2番 豊村貴司  
4番 山口等  
6番 吉原新司  
8番 古川盛義  
10番 末藤正幸  
12番 池田大生  
14番 宮本栄八  
16番 山口昌宏  
20番 江原一雄

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 末藤彰彦  
次 長 江上新治  
議事係 長 吉永和彦  
議事係 員 田中弘一

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	小	松		政
副	市	長	北	川	政	次
副	市	長	浅	井	雅	司
教	育	長	浦	郷		究
総	務	部	水	町	直	久
企	画	部	古	賀	龍	一 郎
営	業	部	神	宮	一	文
営	業	部	松	尾	和	久
福	祉	部	岩	瀬		清
福	祉	部	牟	田	由	紀 子
こ	ど	も	松	尾		徹
こ	ど	も	山	口	泰	光
ま	ち	づ	庭	木		淳
ま	ち	づ	高	倉	秀	昭
会	計	管	末	藤	勇	二
上	下	水	今	福		剛
総	務	課	川	久	保	和
財	政	課	山	崎	正	幸
企	画	政	松	尾	謙	一

議 事 日 程 第 2 号

6月11日（月）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成30年6月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
1	16 山 口 昌 宏	1. 新年度に向けて市長の方向性 1) 福祉、教育行政について 2) 施設整備について 3) 市長の政治姿勢について
2	11 松 尾 陽 輔	1. 武雄市の方向性について 1) 均衡ある発展と財政力 2. 防災・減災・予防について 1) 土砂災害危険箇所の再確認と地域住民への再周知 2) 国道 498 号若木バイパス開通に伴う安全性について 3. 平成 30 年度高齢者福祉計画について 1) 高齢者の絶対的貧困と相対的貧困調査について 4. 提案事業 1) 母子手帳アプリ“たけちゃんアプリ（仮称）”と登下校時の I C タグの導入について 2) ヘルプマークの推進について
3	4 山 口 等	1. まちづくりについて 2. 道路行政について 3. 子育て支援について 4. 高齢者福祉対策について
4	20 江 原 一 雄	1. 教育行政 1) 就学援助制度のとりくみ 2) 35 人学級のとりくみ 2. 国保行政 3. 環境行政 1) 分別回収問題 2) 産業廃棄物問題 4. 農政について 1) 環境農薬について 2) 施設整備 5. 市長の政治姿勢について 1) 非核・平和都市宣言について

順番	議 員 名	質 問 要 旨
4	20 江 原 一 雄	2)行政文書について

---

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。休会前に引き続き本日の会議を開きます。

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を開始いたします。

一般質問は、12名の議員から38項目についての通告がなされております。

質問の方法、時間につきましては、議会運営委員長の報告のとおりでございます。

議事の進行につきましては特に御協力をお願いいたします。

また、執行部の答弁につきましても、簡潔でかつ的確な答弁をお願いいたします。

それでは最初に、16番山口昌宏議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。16番山口昌宏議員

○16番（山口昌宏君）〔登壇〕

おはようございます。新しい議場になり1番目の一般質問ということで、非常に緊張をしております。

何かこう見渡すと、ちょっと狭いかなというような感じがしますがけれども、議員の皆さん方はそれなりにしっかり頑張っておられますので、狭いとか広いとかいう前に武雄市を何とかしようということで、今から一般質問をさせていただきます。

まず最初に、新年度に向けての市長の方向性についてということで、まず福祉行政等々から入りたいと思いますけれども、福祉行政の中で地域包括ケアというのが去年から始まっております。一体その地域包括ケアとは何ぞやということでまず答弁をいただいて、その後に進めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

岩瀬福祉部長

○岩瀬福祉部長〔登壇〕

おはようございます。地域包括ケアの全体像について少し説明したいと思っております。

団塊の世代が75歳以上の高齢者を迎える2025年には、3人に1人が高齢者と見込まれております。同時に介護需要がそれだけふえるということになっております。それに対して支援する側の人手不足も懸念されております。

そのために、高齢者が住みなれたまちで自分らしく生きる、また安心して暮らすことが

できるよう、医療、介護、生活支援、介護予防、住まい、この5つのサービスを一体的に提供する体制と、地域の特色を生かして主体的につくり上げていくことが地域包括ケアということで、地域で支え合うというのが大きな目標となっております。

○議長（杉原豊喜君）

16番山口昌宏議員

○16番（山口昌宏君）〔登壇〕

では、地域で地域でと言われますけれども、その地域で今後どのような方向に向かっていこうと思われるのか、その点についてお尋ねをしたいと思いますけど。

○議長（杉原豊喜君）

岩瀬福祉部長

○岩瀬福祉部長〔登壇〕

地域でということですけど、それぞれのまちにはそれぞれの特性があって、武雄市のまち中であつたり、周辺部のまちであつたり、それぞれのまちにそれぞれの方向性があつたりして、そこに応じたまちづくりをしていただきたいということで、その中には民生委員さんとか、まち協とかそういうところが中心になって地域包括ケアシステムをつくり上げたり、そういうのが必要になってくるかなというふうに思っています。

ただ、これにつきましては、高齢者を初め、すべての方が安心して暮らせるということを大きな目標としていますので、それぞれのまちに応じたやり方があるのかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16番山口昌宏議員

○16番（山口昌宏君）〔登壇〕

それぞれのまちに、それぞれの特色のある地域包括ケアをと言われますけれども、佐賀新聞の販売店をされている方で、毎週ですか、2週に一遍ですか、各町ごとの行事予定表が配られるわけですね。その行事予定表を見ると、ほぼ3分の2が高齢者の方の行事なんです。

その中に書いてあることがゲートボールであつたり、グラウンドゴルフであつたり、あるいは何といいますか、何か年金友の会とかいろんな行事があるわけですけど、それは書いてないんですよね。

じゃあそれを入れたときに、——まあ老人クラブの事業も書いていない。それを入れたときに、その地域包括ケアという中での老人の皆さん方が——高齢者の皆さん方が、じゃあどれだけ出れば、——1年365日しかないので毎日毎日出るわけにもいかんだろうと、私は思うんですね。それをその、より以上を求めて外に出すというとは、いかがなもんかなと思うところもあるわけですね。

今現在、既にもう地域包括ケアをうたわなくてもできている地域が私はあると思うんで

す。その点について市長いかがお思いですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。まさに私も同じように感じておりまして、例えば私の近所のおじちゃんは朝から畑仕事をして、その後グラウンドゴルフ、もしくはパークゴルフに行って、そしてお昼は地域の寄り合いがあつて、ちょっと昼寝してまた畑仕事をすると。非常にさまざま、見ていると忙しいなというふうに思っております。

地域包括ケアというところも、じゃあ新しいことをどんどんやろうと、そういう視点ではなくて、今あるやっているもの、もうそれもある意味言えばそういった広い意味での地域包括ケアだというふうに私は感じております。

そういう意味で、とにかく今やっているもの、あるいは今あるそういった地域の資源、そういった取り組み、それをやっぱりうまく生かしていくというところが地域包括ケアにおいて大事な発想じゃないかなと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16番山口昌宏議員

○16番（山口昌宏君）〔登壇〕

元気なお年寄りをつくるという話なんですけれども、じゃあ家にいて外に出ないで畑仕事をされている方、これ元気じゃないかと、そうじゃないんですね。皆さん方と一緒に遊びたい、何かをしたいじゃなくって、私は私なりに自分で自分の楽しみを探していますよ、見つけていますよという方だつてたくさんおられるわけです。その人たちをあえて引っ張ってくるというのも、またおかしいんじゃないか。

そして自分の中で、自分の家で元気に暮らしておられる方たくさんおられる。そういうことを踏まえた上で、地域包括ケアというのはしなければいけないんじゃないかと思うわけです。

それはなぜかと言えば、その人、その人にあつた生活をしてもらう。そして元気に長生きをしてもらう。それが私は基本だと思う。押しつけじゃなくって、その人の体に合つた、その人の心に合つた地域包括ケアを目指してやっていただきたいなと思っております。

次に、地域包括ケアやなくて、今度はコミュニティスクールのこの役割、あるいは、あり方はどういうものなんですかというのをまずお尋ねをして前に進みたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浅井副市長

○浅井副市長〔登壇〕

おはようございます。先ほど地域包括ケアの話がありましたけれども、少子高齢化とい

う話の中で地域のつながり、まさに支え合い、この部分が希薄化していると。それで地域の教育力が低下しているというふうに言われております。

また、それにあわせて、それと並行してなんですけども、核家族化、または孤立化、これは家庭の教育力も低下していると。これによって学校で抱えている課題というのが複雑、困難化していて、学校だけでは解決できない。

一方で、地域としてもいかに地域と、——今、先ほど話のあった高齢者の活動は出ていると。じゃあ、その次の世代の活動はどうなっているんだろうかと。そこの部分で、いかに地域の次世代を育てていくかと。これは子どもも含めてですけれども、ここが課題となっています。

こういう中で学校のほうがまずどういうふうに地域とともに、どういうふうな学校を目指していくかと。この部分で地域と目標を共有していかなきゃいけないということがあります。

一方で、地域は学校を核にしてどういうふうに次世代を育てていくかと、地域の人材を育てていくかと。この2つを相互に進めていく必要があると。

こんな中で、コミュニティスクールという話がありましたけれども、ここは保護者の代表だけではなくて区長さんなど地域の主要なメンバーが学校面に参画してもらおうと。

これによって、先ほどの地域包括ケアとかなり目的が重なってきますけれども、地域の実情を踏まえて特色のある学校づくりを目指していくと。これによって、どういうふうな地域を目指すために学校として運営を図っていくのかというところの仕組みがこのコミュニティスクールという仕組みになっております。

○議長（杉原豊喜君）

16番山口昌宏議員

○16番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、各学校で行われておりますけれども、いろんな形があると思うんですね。

じゃあ、地域の学校とはどの範囲を捉えた上で言われるのか。

それで今、花まるをやっていますけれども、その花まるとコミュニティスクールとの関係、それをどう考えておられるのか、その点についてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

浅井副市長

○浅井副市長〔登壇〕

お答えいたします。

地域の範囲ということですが、学校の範囲としては小学校であれば小学校区、中学校であれば中学校区、先ほどの地域包括ケアと重ねて話をすれば、地域包括ケアは大体30分以内に必要なサービスが提供できる範囲ということで、具体的には大体中学校区をイ

メージされてつくられていると、議論されていると。学校の規模によってちょっと違いますけれどもそういうイメージになります。

一方でこの花まるの話がありました。

また、今でも既に昔遊びを学校で教えていただいたりとか、花壇とか農作物とかこの部分を地域の方を先生として教えていただいておりますけれども、ここが地域とともにどういうふうな子育てをしていくかというところになっていて、コミュニティスクールともう一つのところで地域学校共同本部という仕組み、こちらは先ほど地域においてどういうふうに次世代を育てていくかと。

なので、花まるとか昔遊びを通してまさに地域の人たちに子どもたちが教えてもらおうと。ここで地域のつながりをつくっていくというところが必要な仕組みという形で、ここがコミュニティスクールと相互補完的な位置づけにあるというふうに認識しております。

○議長（杉原豊喜君）

16番山口昌宏議員

○16番（山口昌宏君）〔登壇〕

先ほど来、副市長の話聞いていますと、地域包括ケアとコミュニティスクールというのはまさに一体じゃないかと。

私はずっと言ってきたんですけれども、福祉とは生まれてから死ぬまでが福祉である。それは恐らく間違いないだろうと。

そういう中で、私はもう何年も前から横のつながりはどうなってるのと。例えば地域包括ケアとコミュニティスクールというのはまさに一体であるというのであれば、横の話をしてしかるべきだと思うんです。

例えば福祉部と教育委員会がどういうふうにして今後どのような形をとったら地域包括ケアとコミュニティスクールがうまくいくか、そういうふうな話を私は3年か4年ぐらい前からずっと言っているんですけれども、どの程度までされたのか、ちょっとお尋ねをしたいと思います。どなたでもいいです。

○議長（杉原豊喜君）

岩瀬福祉部長

○岩瀬福祉部長〔登壇〕

ただいま教育部との連携という話だったと思うんですけど、まず地域包括ケアシステムは現在私も健康課が取り組んでおります。

この中で高齢者を中心としたまず組織づくり、フレームをしっかり組み立てて、木でいえば幹を大きくしっかり育てまして、それからそれぞれ高齢者、小学校であったり、子どもたちであったり、そういう形を木全体でつくり上げたいということで考えております。

これから、先ほど議員がおっしゃられたように関係部局と十分な連携を進めながら取り



組んでいきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16番山口昌宏議員

○16番（山口昌宏君）〔登壇〕

しっかり幹をつくってって、幹をつくるのに3年も4年もかかるわけですか。

ということは行政の方が、皆さん方が言われることに、努力しますとか考慮します、考えます、こういうふうなことすべてが、考える、考慮するけれどもやらないっていうのがその行政の言葉だそうです。

そういうことで、言われたことをすぐにやれと言っているのではないんです。これはつながりがあるからこそやってくださいよと私は言っているんです。（発言する者あり）

何じゃいぶつぶつ言うて、何ですか。

そういうことで、行政の方もやっぱり今、何をやるべきかということを考えてほしい。そうでないと、上と下が違えばじゃあ真ん中にある人はどうなるのっていうことになるわけです。そういうことを踏まえた上で今後、教育委員会あるいは福祉部等々で協力をし合って本当の地域をつくっていく、そういう考えを持ってやっていただきたい。

では次の保育士さんの件でございますけれども、武雄市における保育士の配置の現状はどうなっているのかをまずお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

おはようございます。まず保育士の配置の現状についてということでございますけれども、現在、保育園や認定こども園におきましては園児数に応じた保育士の配置基準があります。0歳児では3人の園児につき保育士が1人、1、2歳児では6人の園児につき保育士が1人、3歳児では20人の園児につき保育士が1人、4歳児以上では30人の園児につき保育士が1人ということになっております。

近年、共働き世帯の増加により保育のニーズが高まっており、特に1人当たり多くの保育士を必要とする0歳、1歳、2歳の園児の入所希望が増加をしております。加えまして、一時預かりや延長保育など保育のニーズの多様化により保育士の負担が年々ふえており、その人材の確保が非常に厳しい状況ということになっております。

市内の保育施設において配置基準を下回っている施設は現在ございませんけれども、ハローワークに十数件の求人が出されているというのが現状となっております。

○議長（杉原豊喜君）

16番山口昌宏議員

○16番（山口昌宏君）〔登壇〕

他の議員もこの件についてはまた後で質問をされるということでございますので簡単にいきたいと思いますけれども、保育士さんってなかなか休みがとれないんですよね。

というのは、例えば旅行に行きたいから、例えば平日の2日間休みをとりたい、3日間休みをとりたいといったときになかなかとれないんです。代替がないからですね。

それともう一つは例えば、私に言わせれば保育士さんあるいは介護士さん、この人たちの免許を持った人たちはたくさんおるわけですね。たくさんおられるけれども、じゃあ一遍やめて次にどこかに行こうかっていうときに、なかなか行けないというよりも行かない。

それはなぜかという、先ほど言った、休みがとれないあるいはこれ保育士さんにしても介護士さんにしても腰に負担がかかる。私がこう見る限り、保育士さんというのはほぼほぼコルセットを巻いて仕事をされています。その厳しい現状を踏まえたときに、じゃあ給与面でどうなっているのかというところが恐らく課題になってくるだろうと。

例えばこの間の唐津の、新聞に載っていましたがけれども、保育士さんが入っていただければ20万の支度金をやる。その20万の支度金っていうのはエプロン等々あるいは専門書等々を買うときの準備金として20万円やりますよと。

その20万円やる、まあ基準としては1年をめぐりに、1年間は勤めてもらうのをめぐりにやりますけれども、じゃあ仮にこれが20万円やったら、何といいますか、3カ月でやめましたと。3カ月でやめたときにじゃあ返してくださいよと、これは言えないわけですね。

なぜか。労働基準法に違反すると書いてある。じゃあ2カ月でやめたら労働基準法に違反すっけんがっていうことで、やめられたら20万円やったのはどうなるのか。

武雄市もその唐津の例が出たときにそのお話をさせていただいたんですけれども、武雄市も何かを考えなければいけない。じゃあ何を考えるんですかといったときに、市長、この件について市長としてはどうお考えなのかをお尋ねしていいですか。

#### ○議長（杉原豊喜君）

小松市長

#### ○小松市長〔登壇〕

私の娘もこの3月まで保育園に通っていましたので、保育士さんは本当に大変だということところは目の前で見えていました。

先ほど山口議員おっしゃったように、まずいかにして保育士さんになってもらうか。その入り口の部分をどうするか。ただし、入り口の部分だけではすぐ、じゃあ3カ月たってやめるんじゃないかというところがあります。

だから入り口の部分だけではなくて、やはりセットで、就職した後いかに離職を防ぐのか、ここはやはり職場環境をよりよくしていくような取り組みをどう支援していくかというところが私は大事じゃないかなと個人的には思っておりますけれども、そういった両面からこの保育士の皆さんの確保、そして安心して働ける環境づくり、そこを支援していきたいと

考えておまして、ここについては今議会でも一つ提案をしておりますけれども、それにとどまらず、しっかりと現場の皆さんと話をし、そして今後なるべく早くここについては方策を出していきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16番山口昌宏議員

○16番（山口昌宏君）〔登壇〕

保育士不足あるいは高齢者の施設の不足等々がありますけれども、いずれにしても行政がタッチすべきものと、これは各保育士、保育園の運営をされている保育園の皆さん方が考えられなければいけないこと等々がございますし、賃金面でも国のほうとしても何とか保育士さんを確保するために優遇をしたいということが出ておりますので、そういうことを踏まえた上で行政としても今後努力をしていただきたいとお願いしていいですか。

それでは次の施設整備についてお尋ねをしたいと思っておりますけれども、体育施設なり旧庁舎の施設なりの今後についてはほかの議員さんたちも質問をされているようですので、この辺は割愛させていただきまして、私は文化会館の現状と、文化会館の今後のあるべき姿をまず質問をしたいと思っております。

その辺よろしいですか。

○議長（杉原豊喜君）

山口こども教育部理事

○山口こども教育部理事〔登壇〕

おはようございます。文化会館の現状でございますが、現在文化会館の運営は、過去5年間の平均でいきますと、運営費で年間約1億3,500万の運営費がかかっております。そのうち、経常的にかかる部分が1億2,000万ほどかかっている現状でございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番山口昌宏議員

○16番（山口昌宏君）〔登壇〕

今の部分については文化会館の全体枠の話だと思うんですね。

文化会館の今後を占うときに、まず1番目に大ホールがどうなるのかというのが皆さん方の関心事だと思うんです。

じゃあ今後、この大ホールを運営していく、修理をしていく、あるいは解体する、いろんな方向性があると思うんですね。その点について、市長どうお考えですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

そこについては現在、アセットマネジメントの個別計画もありますので、その中で今後

を見据えてどのような形が望ましいのかしっかりと検討してまいりたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16番山口昌宏議員

○16番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしてもあそこの空調設備、文化会館全体の空調設備、全体の空調設備が何といますか、一体になっているものですから、もう恐らく大ホールも小ホールについても効きが悪いと思うんですよね。もう四十数年たっていますので。

そういう中で、文化会館をとるのか空調設備のし直しをとるのか、あるいは解体するのか、その辺を踏まえた上で御答弁願えますか。

○議長（杉原豊喜君）

山口こども教育部理事

○山口こども教育部理事〔登壇〕

先ほどありましたように、文化会館の経費につきまして非常にかかっている部分はございますが、その方向性につきましては、やはり現在の利用者数、あるいはそれに対する費用とあわせて費用対効果を含めまして今後検討していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16番山口昌宏議員

○16番（山口昌宏君）〔登壇〕

私はほんな先ほど言うたですよ。費用対効果をあわせて今後検討していきます。何もしませんよというのが検討という、行政言葉って、先ほど言わんやっただすかね。ちゃんと聞きよってくださいね。

なぜ言うかって、費用対効果というのは利用者と金の関係だと思うんですよね。

大ホールの利用者のその状況を見ているときに、大ホールの方は例えば1カ月なら1カ月続けて借りますよというのがあわけです。見えんぎ言いくかですね。本人の顔の見えんぎ。

1カ月の中で、実際借りているのは1カ月ですけども使用するのは3日か4日と、そういうふうな状況がたくさんあわけです。

例えば高校、例えば武雄高校が仮にお借りになったときには1カ月借りますよと。ただし、1カ月借りるけれども本当に使うのは1週間のうちの1回か2回。演奏会がありますから、例えば1カ月借りますよと。でも使用するはそのあいなかの何日間かですよと、そういうふうな状況なんです。

そういうふうなことをわかった上で答弁をしていただかないと、費用対効果を考えて、大ホールで費用対効果を考えたときに使えるはずがないじゃないですか。

もう一遍答弁お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

文化会館、大ホール含めましてこれまでもいろんな検討をしてきたところであります。

今お話にありましたように利用頻度というのは、大ホールでありますのでそう多くないというのはあります。ただ、練習日等も含めて、かなり使っていると。

それからこれまで非常に大きな会、催しがあっていたわけですが、それについても随分減ってきている状況もございます。

空調の話がありましたけれども、実際には使わない予備の空調も実際必要なわけでありまして、そういう面で非常に多額の経費がかかっているというのは承知しているところであります。

そういうことを含めましてホールの規模、それからいろんなことを、ほかいろんなところを今実際に考えているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番山口昌宏議員

○16番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても、その見直しの時期がきているということなんですね。どっちにしても。空調にしても施設の設備にしても。今のニーズには必ずしも合っていないんじゃないかと思っています。

そういう中で検討をしていただいて、検討ばすっぎにゃあは、あとは知りませんよということじゃなくて、何とか、さっきの話じゃないですけど、費用対効果を考えてやりますということだそうなので、しっかり考えてやっていただきたいと思います。

では次に行きます。

市長の政治姿勢についてということで出しておりますけれども、市長の今1期目の3年半を振り返って、例えば競輪場、あるいはこども図書館、庁舎、そしてこの間あった竿燈まつりですね、武雄市で出したときに、通常は主催者発表というのは大体6割から7割ぐらいが、主催者が発表する数字なんです。それで竿燈まつりが8万人というその主催者発表。

そして次の日の新聞に、これは佐賀新聞でしたけれども、佐賀新聞さんすみません、有明抄に書いてありました。あれは8万人ではきかないだろうと。それくらいに、——私も議員になってからもう何十年かたっていますけれども、あれだけの人が集まったのを見たことはないんですね。それくらいに武雄市がにぎわった。

これは3年半の市長の成果だと思うんです。

そこで、市長として自分が掲げた3年半の実績を踏まえて、今どうお思いなのかをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まさに3年5カ月前に多くの皆さんの御指示をいただきまして市長に就任をさせていただきました。それ以来、前進と対話ということで、この武雄を前に進めると。そして議員の皆さんとともに、そして市民の皆さんとともに、そして職員とも議論を重ねてさまざまな政策に取り組んできたところであります。

本当にたくさんの政策に取り組んできましたので、列挙すると本当に時間がかかるんですけども、やはり政治は結果だと思いますので幾つかお話をしたいと思います。

子育て、教育については、とにかく子どもたちがこの武雄であれば、どんな環境であってもしっかりと育て、そして学べるような環境づくりをしようということで取り組んできました。あわせて、このまちで子どもを産みたい、育てたいと、そのような環境づくりに取り組んできました。

その中でもやはり象徴はこども図書館じゃないかと思っています。平成25年に図書館がリニューアルされて、そして初年度は92万人と、まさに100万人に近づくような来館者数がありました。

そしてその後、平成28年度であれば69万人ということで、来館者数、一定程度落ちてきたんですけども、昨年10月のこども図書館のオープン、そして3カ月で10万人の方にお越しいただきました。平成29年度の図書館全体の来館者数は91万人ということでV字回復をしたわけでありまして。平成30年度は恐らく100万人を超す勢いなんじゃないかというふうに思っています。

ほかにも、やはり大事なものは仕事、雇用であります。雇用についても、大同メタルさん初め企業誘致をして、そして有効求人倍率は1を超え、調べてみますと市民の平均所得はこの2年で8.2%ふえた。

観光客についても、かなりふえてきました。特に外国人観光客は4年で6倍にふえたということでもあります。

ほかにもインフラも大事だと思っています。まさに当時の北方の松本町長、黒岩議長初め、皆さんが本当に悲願であった国道34号バイパスの延伸、これも実現することができました。

高齢者福祉は、特にこしは力を入れています。高齢者の元気がまちの元気だということで、3億円のパッケージを組んで今取り組んでいるところであります。

そういったこの3年5カ月の取り組みですけども、やはりその集大成は秋田の竿燈まつりじゃないかと私も感じております。

2年間の誘致活動を経て25年ぶりの開催、8万人の方にお越しいただきました。武雄に

こがん人が来たことはなかもんねと、そういった声をたくさんいただきました。まさにこの秋田の竿燈まつりが、この武雄のにぎわい、そして活気、元気、今の武雄の姿を象徴しているんじゃないかなというふうに思っております。

そういう中では、特に竿燈まつりは市民の皆さん、そして職員の皆さんに本当に裏方として頑張ってくださいました。竿燈が全く見えないところで、駐車場ですと黙々と整理をしている職員も多数いて、そういった裏方の職員の皆さんにも本当に感謝をしています。

この3年5カ月、議会の皆様、そして市民の皆さん、そして職員の皆さん、皆さんの力でここまで武雄が活気あるねと、そういうふうなまちにつながったというのは私から本当に感謝を申し上げます。

**○議長（杉原豊喜君）**

16番山口昌宏議員

**○16番（山口昌宏君）〔登壇〕**

我々から見ても、よそもん、よそもんって言われながらも、とにかく市長が全身全霊をかけて武雄市のために頑張っていた、この姿だけは認めてあげたい。そして、成果も上がったんだらうと私は思っています。

そういう中で今後、例えば九州新幹線西九州ルートであったり、新工業団地の造成であったり、六角川の洪水調整池等々の課題もたくさん残っております。

そのたくさん残っている課題を市長は今後どのように考えておられるのか、その辺についてお尋ねします。

**○議長（杉原豊喜君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

やはりこの3年5カ月取り組んできて、何より大事なのはやっぱり人だというふうに感じております。まちをつくっていくのも、やっぱり人だというふうに思っております。

私、従来から申し上げていますが、やっぱり幾つになっても住みなれた場所で安心して暮らせるまち。これが私はこれからますます求められるというふうに思っています。

安心して子どもを産め、そして安心して育てられる、そして安心して長生きできるまち。ほかに言えば、この武雄であればどんな境遇であってもチャンスがあって、出番があって居場所がある、そういったまち、いわば福祉のまちだというふうに思っています。

先ほど山口議員がおっしゃった、まさにゆりかごから墓場までというところが私も福祉だと思っています。

ちょうど2年前に神村学園高等部の武雄校舎が山内で開校いたしました。不登校であったり引きこもりであったり、ちょっとレールを外れたかもしれないけれども、それでもまたもう一回頑張ろうという子どもたちが、ちょうど2年前41人集まって、もう卒業生もたく

さん出ています。そして今は 70 人以上の子どもがそこに通っています。何とかこのチャンスを生かしたいと、そういうふうな子どもたちが今頑張って学校に行っています。

先日、秋田竿燈まつりでこんな話を聞きました。

ある市内のおばあちゃんなんですけれども、どうしても家に引きこもりがちだったと。でも 25 年ぶり、これは見に行きたいということで、家族に竿燈まつり当日連れて行ってもらったそうです。そして何時間も前から沿道で、一番前の列で竿燈が来るのを待っていたと聞きました。そのおばあちゃん、すごく元気になって、次は秋田に行きたかって。

まちの元気がおばあちゃんの元気につながって、恐らくそのおばあちゃんの元気がまた、まちの元気、周囲の元気につながっていくんだと思います。やっぱり、高齢者の元気はまちの元気につながるんだなというふうに思いました。

そういったゆりかごから墓場まで、私はやっぱり福祉、これはやっぱり重点だというふうに思っています。それは今後もやっていかなければならないというふうに思っています。

ちょっと長くなるんですけど、もう一つお話をしたいんですけども、平成 34 年、4 年後に、先ほど山口議員おっしゃったように九州新幹線西九州ルートが開業します。これは武雄にとって物すごい大きなチャンスです。

この武雄というところは過去を振り返ると交通のたびに発展してきたまちだというふうに言われています。江戸時代に塩田から塚崎に宿が変わった、そして明治に鉄道が来た、そして昭和 62 年に武雄北方インターが開通した。

今度の新幹線開業は、いわば武雄にとって第 4 次交通変革、4 回目の大きなチャンスだと。やはりここをしっかりと生かしていくというのが大事だと思っています。

交通の要衝を生かして、そして人、物、金を集めて、そして雇用をふやし、定住をふやし、移住をふやし、そして観光客、交流人口をふやして、地域の経済の活性化をしてまちを元気にしていく。そして、それも福祉につなげていく。これが本当にこの 4 年、最大で、ひょっとしたら最後のチャンスかもしれない。ここにしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

先ほどおっしゃった六角川洪水調整池、本当に大事です。国道の問題もあります。スポーツの問題もあります。ここについては議員の皆さんとこれからもしっかりと議論をして、市民の皆さんの意見も聞いて一緒になって進めていきたいというふうに思っています。

そういった、さまざまありますけれども、やはり福祉を重点、そしてまちの元気をつくる、そして今ある課題をしっかりと前に進める、これを必ずやっていきたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番山口昌宏議員

○16 番（山口昌宏君）〔登壇〕



6月1日に選挙管理委員会が開かれて、12月16日が市長選の投票であるというのが6月2日の佐賀新聞に載りましたがけれども、ただいま市長がるる申されたとおり、今後の課題、まだ山積しております。

その山積しているその課題を今後やっていきたいということは出馬表明と、市長が出馬をされるという表明だと受け取っていいわけですか。いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私はこの年末の市長選への出馬を、ここで表明をいたします。

1期目は土台づくり、そして次はその土台を生かして、そして市民の皆さんの御信任をいただけるのであれば議会の皆さんと手を携えて、そして市民の皆さんとも手を携えて、オール武雄で福祉のまちづくり、そしてまちの活気づくり、元気づくりに取り組んでまいりたいと、そういう決意であります。

○議長（杉原豊喜君）

16番山口昌宏議員

○16番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにいたしましても、今の武雄市のこの発展、あるいは周りから見たときの武雄市の今の状況、これを絶やしてはいけないという思いの中で、市長も我々も頑張っていきたいと思えます。

そういう中で今の表明が本当に武雄市にとっていいことだということを考えながら、これで私の一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で16番山口昌宏議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、10分程度休憩をいたします。

休 憩 9時48分

再 開 9時58分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、11番松尾陽輔議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。11番松尾陽輔議員

○11番（松尾陽輔君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、11番公明党松尾陽輔の一般質問を始めさせていただきます。

新庁舎と真新しい議場での初質問、初当選をさせていただき初めて登壇したときの緊張感を思い出しながら、初心に戻ってしっかりと一般質問をしていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

それでは時間も限られておりますので、早速一般質問に入らせていただきます。

今回は大項目として最初に武雄市の方向性について、2つ目に防災、減災、予防について、3つ目に平成30年度の高齢者福祉について、最後に提案事業について質問をさせていただきます。

小項目については質問席からさせていただきたいと思っております。

それではまず最初に、5月12日に秋田竿燈まつりIN武雄が盛大に開催をされました。私も家族でどっこいしょ、どっこいしょとかけ声を上げながら感動した1人でもあります。また武雄市の人口の約2倍、8万人の人混みの中で今の武雄市の勢いといいますか、小松市政の勢い、にぎわいづくりへの熱い思いを感じた1人です。

そこで改めて、今回の秋田竿燈まつりIN武雄の感想と今後のにぎわいづくりへの市長の考え、思いを冒頭お尋ねをさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

秋田竿燈まつり、本当に8万人の皆様に来ていただきました。来ていただいた皆様にもぜひ感謝を申し上げます。

来てないけどテレビで見たという方もかなりいらっしゃいました。本当にありがとうございます。

こういった祭りが盛大にできたのも本当に多くの関係者の皆さんのおかげです。

そして、これまで秋田と武雄のつながりをずっと、長年つくっていただいたロータリークラブの皆さん初め、市民の皆さんの絆があったからこそこの今回の25年ぶりの開催につながったというふうに思っております。本当にありがとうございます。

今回お祭りを見ていて、観客の皆さんも一体となったお祭りだというのを実感しました。やはり、祭りはみんなで作るものだ。これはまちづくりにも通ずるところはあるかなというふうに感じたところです。

祭りの規模はいろいろありますけれども、市内でも各町各地区で本当に地域の皆さんが忙しい中準備をされて、そしてお祭りをされているということが本当に市内のあらゆる箇所で開催をされております。

改めてこの竿燈まつりを振り返りますと、今武雄である地域の皆さんが自分たちで祭りを続け、そして、当日楽しんで、毎年されているということは、これはやはりそれぞれの

地域、そして各町のにぎわい、元気にもつながっているんだらうというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番松尾陽輔議員

○11 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

にぎわいがまちを元気にすると市長がおっしゃったとおり、今後も引き続いてにぎわいづくりをよろしく願いを申し上げながら、具体的に質問をさせていただきます。

まず最初に、武雄市の方向性について。均衡ある発展と財政力ということで質問を上げさせていただきます。

最初に、均衡ある発展についてお尋ねをさせていただきます。

ここ 10 年、武雄市の顔が整いつつあるといたしますか、新武雄病院の開設、また図書館・歴史資料館のリニューアル、さらにはこども図書館の新設、それから競輪場のリニューアル、中心市街地の見違えるような道路整備が今始まっております。

また大型商業施設の開業、さらには川良、中野地区ではアパート、一戸建ての住宅が建設ラッシュ、あちこち新築が見受けられます。

また、今回の新庁舎の完成、また平成 34 年度には新幹線武雄温泉駅が開業をいたします。

皆さん方も、ほかにもいろいろ思っているところがあるかと思えますけれども、先ほど言いました武雄市の顔というものが整いつつあります。

そこで、手足というべき周辺部といたしますか、そこもしっかりと機能、発展していかないと、武雄市全体として前には進みません、市長。ボールもゴールに入れるためには選手同士の連携といたしますか総合力が必要であります。

そこで現在、周辺部の現状を見てみますと、急激な人口の減少、さらには小規模集落の崩壊、空き家の増加、また耕作放棄地の増加、山林の荒廃、さらには最近ため池の崩壊のおそれが懸念をされております。また土砂災害の増加、後でまた質問をさせていただきますけれども、周辺部では土砂災害の危険性が増しております。また、農業の後継者不足、さらには高齢化によって集落の維持管理が困難な状況になっております。そういった中のさまざまな課題が市長、周辺部にはまだまだ山積をしております。

そこで市長にお尋ねでありますけれども、周辺部は、先ほど私が述べましたけれども、どういった課題を抱え、また課題をどのように市長自身として認識をされておられるのかまず確認をさせていただきます。御見解をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

ただいま議員から御指摘がございましたとおり、少子高齢化や過疎化等が進んでおり、

後継者不足や耕作放棄地の増加、空き家の増加等さまざまな課題があるということにつきましては十分認識をしております。

市といたしましては、課題解決に向けて農業後継者の育成、移住定住施策の推進等に取り組んでいるところでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

11 番松尾陽輔議員

**○11 番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

課題も共通認識っていうことでわかりましたけれども、課題解決には見える形で取り組んで、ぜひお願いしたいということでも思っております。

ちょっと視点を変えて話をさせていただくと、周辺部の魅力はないのかどうかという部分ですね。

魅力に関しては、私の家の前ですけれども、もう蛍が飛び交うような自然豊か、あるいは子育て環境が最適、あるいは歴史と自然の遺産、魅力が豊富、散策と新たな発見、あるいは開発の余地がまだ十二分にあるというふうな周辺部の魅力も一方ではあるわけで、そういった中で魅力づくり、にぎわいづくり、魅力を形としてつくり上げることも必要ではないかと考えておる一人であります。

ただそこには、行政主導ではうまくできない。また地域主導でも限界があるということも理解をされているかと思えます。そういった中で、行政と一体となって目に見える形づくり、目に見える政策づくりが周辺部にとっては活性化、発展につながるものだと確信をしております。

そういった中で、今週から始まるサッカーのワールドカップではありませんけれども、武雄市を一つのグラウンドという形で考えてみたときに、周辺部の活力、発展に対してどのように考え、どのような具体的な政策、あるいはどのような具体的な戦略、戦術を市長は周辺部に対して描いておられるのかどうか、その辺をちょっと具体的な形で御見解をお尋ねさせていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

古賀企画部長

**○古賀企画部長〔登壇〕**

武雄市では、武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略、いわゆるスター戦略に掲げておりますが、「自分たちのまちは自分たちで」をキーワードにまちづくりの推進をしているところでございます。

また、市民協働によるまちづくりに対しまして、これまでがんばる地域応援事業補助金等を交付したところでございますが、今回また新しく元気なまちづくり地域交付金などを交付して、魅力のあるまちづくりを支援しているところでございます。

各地で積極的に御活用いただいて地域に合った、地域で必要なものをどんどん活用していただきたい、できる限りのお手伝いをしたいというふうに考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11 番松尾陽輔議員

○11 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

当然、地域、周辺部が音頭をとって事を起こしていかないといかんと思えますけれども、なかなかそこが、限界が、周辺部だけでは限界がある。ただ、行政主導ではなかなかうまく事が進まないというのが現状ではないかと思っております。

先ほど冒頭は武雄市の顔ができ上がってきたということで、周辺部も小粒でいいですから顔づくりが今後必要じゃないかという形で思っております。

市内の、今回の市内 107 区ですか、20 万円のまちづくり交付金が、——20 万円、私も下村区ですけれども、きのう集会があって、20 万円どう使うかということで、何とか集落が元気になるような使い道がなかろうかということで、検討もし始めて有意義な交付金だと判断はしておりますけれども、以前一般質問で、ぜひ見える形での集落点検をまず市長、試みたらどうですかと。周辺部の今の現状を再認識して、しっかりと分析をして、それで将来のまちづくりをどうしていこうかと。どういった事業が周辺部、各地域に必要なのか、まず議論が大事じゃないかという部分も以前一般質問で提案をさせていただいたことがあります。

そういった形で先ほど言いました 20 万円、自由に使ってくださいよ、元気になる交付金ですから皆さん、皆さんが地域で考えてという取り組みも必要でしょうけれども、もっとこう掘り下げて、先ほど言いました集落点検、いま一度そういった形で取り組む必要性が私は今あるんじゃないかということで思っておりますけれども、市長の御見解を最後にお尋ねをさせていただきたいと思えます。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

このサッカーのを見ますと、私も以前答弁でも申し上げたんですけれども、やはりまちづくりはですね、武雄は9つのまちがあって、それぞれ特色があります。いわば、ちょうど6月ではあるんですが、あじさいのような、あじさい型のまちというのがこの武雄市はまちづくりで、私はふさわしいんじゃないかというふうに思っております。

各町の特色を今後どう生かしていくか。その各町にある各区ですよ、今本当にそれぞれの区で、さまざまな地域資源を生かした取り組みというのをさせていただいています。

そこに市の交付金を活用いただいているというのもありますけれども、確かにおっしゃるとおり、そこに加えて官民の協働という視点は今後、大事であるというふうに感じております。

集落点検ということで、たしかT字型でしたっけ、——とおっしゃったと思います。ほかに1%戦略とかいろいろ手法はあると思うんですけども、今後まちをどういうふうにしていくか考える上でそういった調査、分析というところは私も必要になってくるんじゃないかというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番松尾陽輔議員

○11 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひ行政としての仕掛けづくりを、ぜひよろしくお願い申し上げながら、次に武雄市の方向性について、財政力についてお尋ねをさせていただきたいと思います。

先ほど武雄市の顔が整いつつあるんじゃないかということで話をさせていただいて、図書館・歴史資料館のリニューアル、それから競輪場のリニューアル、こども図書館、またこの新庁舎が新築をされました。

そういった中で、地域を回る中で、こがん武雄がものができるようばってん財政は大丈夫やろかという声が私の耳に入ってきます。

一般企業では自己資本比率が高いか低いか、また、ことし1年間の利益が出ているかどうか、また、預金はあるのかどうか、さらには、自由に使えるお金がまだ十分にあるのかどうかといったことで企業は一定の判断をするわけですけども、自治体の財政はなかなか見づらいつつあるのか、——これは昨年の12月の一般質問で自治体の決算、予算報告の公表について市民向けのわかりやすい家計簿で市長、市民の皆さんに公表したらどうですかという御提案をさせていただきました。

これは28年度の12月の市報ですけども、収入253億4,142万円、歳出が244億2,282万円、億単位でピンと市民の皆さんが来られないかと思いましたので、28年度の小松家の家計簿で皆さんにわかりやすいような決算、予算をつくり上げたらどうですかということで御提案をさせていただき、検討をさせていただいているかと思っております。

そういった中で、今回は私なりに武雄市の体力はどういう今の状態だろうかということで、ちょっと分析の指標で調べてみました。

一つに財政力指数。財政の体力は、武雄市はどのぐらいあるんだろうかと。東京都は1以上ですね。経済収支比率、武雄市はまだどれぐらいの自由なお金ができるだろうか。あるいは実質公債費比率、収入に対して借入金の返済がどうだろうか。あるいは将来負担比率、将来の子どもたちに財政を圧迫するような可能性はないだろうかということで、武雄市の財政の体力をチェックさせていただきました。

3年間の指標をちょっと皆さんに説明させていただきますと、財政力指数、26、27、28年度ですけども、0.47、0.47、0.48と、これが1%に近いほど財政力がありますけども、武雄市は0.47、0.48。自主財源が半分と、課題としては今後新たな財源が、確保が必要じ

やないかということで判断をいたしました。

経済収支比率 88.2、88.1、93.7。28 年度は 5.6%も上昇をしております。武雄市は、政策的に使えるお金が少しずつ目減りしていますよ、財政が硬直化していませんか、自由度が少なくなってきましたよって。そういった中で今後限られた財源で効率的な活用が求められているんじゃないかと判断しております。

また、実質公債費比率 8.7、7.9、7.7。減少傾向ですけれども、29 年度の決算予想では若干上昇してくるんじゃないかなろうかという懸念を見ております。

最後に、将来負担比率 13.5、21.7、31.2。上昇傾向にありますけれども、早期健全化基準は 350%。余りにも桁が、350 に対して 31.2 ですから、余りにもかけ離れた数字ですので、他市の状況を見てみますと、佐賀市が 0%というか算出不可能、十分な財政力が佐賀市はあるということです。近くの唐津市は 131.8、鹿島市が 92.6、嬉野が 70.7。武雄市はこの 31.2%だと将来の財政を圧迫するまでにはまだ至っていないということで判断をさせていただいたところでございます。

そういった中で、まず改めてこういった数字を見る前に、今市民の皆さんの関心が一番高まっているこの新庁舎。この新庁舎が全体的にどのぐらいの建設費がかかったのかどうか。また、かかった建設費をどのような形で調達をされたのかどうか、市民の皆さんにわかりやすく御説明を願いたいと思います。

企業でいえばですよ、会社をつくるときには借入れをする体力が企業に十分あるだろうか、あるいは借りたお金が返済できるだろうか、また今後の売り上げ、見通しはどうかといったいろんな角度から、分析をしながら新社屋を建設するわけですけれども、改めてこの新庁舎の総工費と調達はどのような形でされたのか、確認をさせていただきます。

わかりやすく御説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

おはようございます。新庁舎の総工費と財源でございますけれども、総工費は約 42 億 2,600 万円。それから財源といたしましては約 32 億円の合併特例債、地方債を借入れて充当しております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

11 番松尾陽輔議員

○11 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

総工費が 42 億 2,600 万円、合併特例債が 32 億円と。

あと、10 億円はどう調達されたのか、ちょっと確認をさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

継続費を組んで、2カ年に分けて、それぞれ一般財源で対応をしておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番松尾陽輔議員

○11番（松尾陽輔君）〔登壇〕

いろんな知恵を出しながら、また合併特例債は期限がありますから有効に活用していただいて、この新庁舎が建設に至ったかなということで判断もしておりますけれども、それでは先ほど言いました財政力指数、あるいは将来負担比率、将来の子どもたちに負担はないだろうかという部分の中で、ずっと私も個別に質問を、今後、実質公債費比率が上昇傾向にありますよと、経常収支がちよっと硬直していますよ、武雄市が自由に使えるお金がだんだん減ってきていますよということを説明しながら、もっと突っ込んで話をしたいんですけども、ちよっとほかの質問もありますから、時間も限られておりますから、今回はざっくりと質問というか。

それでは武雄市の今の、現在の体力、あるいは将来負担は来ないのかどうか、その辺をざっくりで結構ですから今の状況、体力はどのぐらいあるのかどうか、わかりやすく御説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

自治体の体力をあらわす指標といたしましては、標準財政規模というのがございます。これにつきましては、その自治体が通常収入し得るであろう経常一般財源の総量を示すものでございまして、武雄市は約130億円でございます。県内10市のうち5番目といった状況でございます。

武雄市の基礎体力、この130億円に対しまして、先ほど議員のほうから御説明がありました実質的な借金の返済額が、あるいは将来にわたって既に決まっている負担がどれくらいあるか、これが先ほど議員御説明いただきました実質公債費比率と将来負担比率でございますが、これにつきましては、それぞれ7.7と31.2ということでございまして、今のところ特に注意を要する数値ではないといった認識を持っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番松尾陽輔議員

○11番（松尾陽輔君）〔登壇〕



わかりました。

そういった中で、企業でいえば社長が最終決裁をするわけですから。企業であれば社長ですけれども、自治体でいえば小松市長、最後にどう見ておられるのか。

これで舵取りが十分にできているのかどうか、最後に御答弁を、御見解をお尋ねさせていただきます。

**○議長（杉原豊喜君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

執行部の中では水町部長と山崎課長を中心に、財政課がとにかく財政が悪化しないようにと目を光らせてやっているところであります。

県内の中では、武雄も悪い状況ではないんですけれども、これはほかの市町も同じですけれども、だんだんと交付税が減る、あるいは扶助費がふえる等々で、財政についてはさらに今後一層厳しく見ていかなければならないと思っております。

私としましては、とにかく先ほど議員もおっしゃいました自主財源の確保というところも非常に大事になってくると思いますので、メリハリの効いた投資に加えて、そこは地域経済を活性化して、とにかく税収を上げる、そしてそれを施策に回すと。ここを今度、34年の新幹線開業に向けてしっかりとつくっていきたいと考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

11番松尾陽輔議員

**○11番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

今回、私もざっくりと質問をさせていただいて、来年度から交付税が約7億円、8億円減少してきますから、その辺もしっかり見詰めて、見通しを立てて、今後の武雄市の財政運営に当たっていただきたいと思っております。

それでは2番目の防災、減災、予防についてお尋ねをさせていただきます。

具体的には、私は災害危険箇所の再認識と地域住民への再周知ということでお尋ねをさせていただきます。

4月11日、大分県中津市耶馬溪町の土砂災害、崖崩れ、皆さんもまだ記憶に残っていらっしゃるかと思いますけれども、4世帯が全壊、6の方が亡くなられているという大惨事だったですね。

現場では、4月に入りほとんど雨も降らなかった、また地震もなかったということだったそうであります。斜面の崩壊がこんなところでなぜ起きたのかどうかということも言われておりました。斜面の崩壊が、一般的には集中豪雨や地震などで発生するものだが、今回は岩盤が地下水などで風化したものとの見解も出されておりました。

また今回の被災家屋の地域は、いずれも土砂災害防止法に基づく警戒区域などに指定を

されていた区域だったそうであります。

そこで質問でありますけれども、武雄市内の各町には何カ所の土砂災害危険箇所が、まずは指定をされているのかお尋ねをさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

武雄市内の土砂災害危険箇所は何カ所かということですが、スライドをごらんいただきたいと思います。

（モニター使用）土砂災害防止法に基づき平成 21 年度から土砂災害の警戒区域と、その警戒区域の中でもさらに危険なエリアを特別警戒区域として県が指定をしております。

若木町と北方町につきましては一部測量等作業中でございますけれども、町ごとの箇所数はスライドのとおりでございます。警戒区域が合計 1,729 カ所。うち特別警戒区域が 1,500 カ所といったことになっております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番松尾陽輔議員

○11 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

予想以上に多いですね。びっくりした数字ですね。

警戒区域が 1,729 カ所、それから特別警戒に至っては 1,500 カ所ということで、——先月 31 日やったですか、防災パトロールが実施をされたようですけども、こういった危険箇所も定期的に見回りをされているのかどうか、また状況調査といいますか、ある程度の、半年おき、1 年おきぐらいの定期的な現場に入っても、どういう状況なのかという確認も必要かと思っておりますけれども、現在どのような形でこの辺の調査、パトロールをされているのか確認をさせていただきたいと思います。御見解を。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

雨季前に消防団を初め、関係機関と合同で危険箇所の防災パトロールを行っているところでございます。

それから地域からの情報提供があった場合には、随時、現地確認を行っているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

11 番松尾陽輔議員

○11 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

わかりました。

ただ、先ほど大分県の耶馬溪の土砂災害の写真を見たところですが、市内にも耶馬溪と山合いが、集落が似たような箇所が数多く、——皆さんもある程度周辺回られてあるかということでお気づきになるかと思えますけれども、これは若木町の古場山地区の山合いの風景ですが、山合いの奥に7世帯ほど家があります。

4月11日の耶馬溪の土砂災害を見て、一人住まいの高齢者の方が自宅裏にも同じような、——山に自宅が覆われて、最近夜が不安で寝つきが悪かということをお聞かせいただきました。非常にこう、むき出しになっている状況ですね。

そういった中で、大分県中津市の崖崩れを教訓に自分の身をどうやって守るか、自助、共助、公助という自助の部分ですが、ちょっとした知識で人命は助かるという意識を持つことが非常に重要である。ちょっとした知識で人の命は助かるということです。

ということは、土砂災害には前兆現象があるということです。異常な音、石のぶつかり合う音、木が揺れる音、異常な臭い、土くさい臭い、ものが腐った臭い、異常な様子、割れ目の発生、小石の落石、あるいは沢の水が増水といったことだそうであります。

そういった中で、普段から自宅の危険性の把握が必要ということで、行政としても豪雨や地震がなくても、土砂災害が起こり得ることを改めて再認識をしていただきたい。耶馬溪を教訓にですね。

そういった中で私も、近くというか、確認をさせていただきました。

生活道路ではありませんけれども、道路に木が覆い被さっている状況ですよ。あるいは木の根っこがもうほぐれて風化状況ですよ。あるいはまさに崖が風化しているというふうな状況が周辺部ではあちこちに、今現在見られております。

そういった中でいま一度、急傾斜地区の危険地区ごとに土砂災害の前兆現象の知識の再周知と、何らかの前兆現象を把握できるような調査体制を整備していくことも防災対策の中でしっかりと考えていく必要があるかと思えますけれども、この防災にかかわる調査体制、あるいはそういった前兆現象の住民への周知等についての御見解を、どのような考えで防災対策を今から進められていこうとしておられるのか、確認をさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

まず先ほどの危険箇所につきましては、特別警戒区域に指定されますと、県が地元説明会を開催いたして周知をすることになっております。

武雄市といたしましても、地域別にハザードマップを作成して配布して説明会、周知を行っているところです。

それから、自助、共助の重要性についてはぜひ、これはお伝えしておきたいところがございますので、まず自分の身は自分で守る自助、それから地域内で助け合う共助を推進する

ために、自主防災組織への出前講座等を行ってこれを推進しているところでございます。

我々といたしましても、防災知識を我々自身も向上させつつ、それから自主防災組織の活動支援、出前講座、それから大きな研修会等も開催をして、その辺のものを通じて地域防災力の強化に努めてまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

11 番松尾陽輔議員

○11 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

しっかりと周知のほどをよろしく願いいたします。

近い将来起こり得るであろう災害に関しては、しっかりとやっぱり対策を講じていかんといかんということでは思っております。

そういった中で、定期的な防災パトロールを、消防団等を通じてやっていますよと。あるいは、地域から連絡があったときにはすぐ対応していますよということでお聞きいたしましたけれども、例えばいのししパトロール、もう山奥まで入られて、イノシシ被害はないだろうかという、いのししパトロールは逐次あちこち回っていらっしゃいます。特に周辺部は奥深く。

例えば今、いのししパトロールで回ってらっしゃる業務を少し拡大させていただいて、そういった災害、見回りまで見てもらうというふうな提携までしていただければ、地域の方が連絡してからという、それはもう間に合わんとですよ。ぜひそういった中での連携をうまいことしていただいて、その辺を未然に、防災、減災、予防ですから。その辺をしっかりと、そういうふうな形の、——せっかくいのししパトロールで回っていただいているわけですから、その辺の考えはどうか。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

御指摘を受けました営業部あるいは全庁的なそういった連携もしっかりととっていきながら対応してまいります。

○議長（杉原豊喜君）

11 番松尾陽輔議員

○11 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

よろしく願いをしておきたいと思います。

それとか、地域には地域自主防災組織会議がありますから、それもしっかりと機能するように。地域によっては、私の地域も、もう4、5年前に1回防災訓練があったくらいで、ちよっともうここ5、6年途絶えているというような状況です。

ある地域ではしっかりと防災訓練もやっていたところとか、まちまちなもので

すから、その辺もしっかりと再認識をしていただいて、やっぱりもう一回、行政主導でそういうふうな自主防災組織の体制づくりもしっかりとお願いしておきたいと思います。

また、災害で皆さん一番困ることは何だと思ってらっしゃいますか。

何が一番、災害が起こったら何が一番困ったことだろうというアンケートの中で、トイレ問題が一番、トイレが一番問題視されているようです。トイレ不足。

そういった中で、以前マンホールトイレの設置、常備を一般質問で提案させていただいたことがあります。

そのときの答弁は調査検討しますということでまだ常備はされていないようですが、いま一度、——庁舎も新しくなりました。市長、今後、緊急の避難所としても指定をされるかと思いますが、ここも。

そういった中で、マンホールトイレも計画的に避難所への設置をしてはどうかということで、また改めて質問をさせていただきました。

ただ、マンホールトイレですから、下水道、マンホールが損傷すれば使えなくなるというのがちょっとデメリットなところがあります。

ただ、そういった中でデメリットを補うためには、簡易の段ボールトイレ等も現在普及をしていますけれども、確認したところ、市内の各避難所には常備をされているようですが数も数が足りないというか、もう数個でしかないところもありますから、その辺は十分な、——災害が起きてからは遅いわけですから、その辺も十分、——非常食は十二分に蓄えもしていただいているかと思いますが、こういったトイレも十分な対応をしっかりといただくようお願いをするわけですが、御見解をお尋ねさせていただきます。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

特に大規模災害となりますと、避難所におけるトイレの確保が非常に大きな課題であろうと認識しております。

市では、各町公民館に簡易トイレを既に配備はしておりますけれども、マンホールトイレも含めて、避難所においてさまざまなトイレを十分に確保できるように、例えばレンタル事業者の方と応援協定を結んで優先確保をお願いするなど、そういった対策を考えてまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

11 番松尾陽輔議員

○11 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

災害時で、先ほど言いました、一番困ることはトイレ不足だそうですので、しっかりと

対応をよろしくお願いしておきます。

それでは、次の質問に入らせていただきます。

国道 498 号若木バイパス開通に伴う安全性について、お尋ねをさせていただきます。

いよいよ、ことしの秋口に開通とのことで今、着々と工事が進んでいます。国道 34 号武雄バイパスが 2 月に開通をいたしました。

皆さんも利用されているかと思えますけれども、開通してすぐにそこで交通事故も発生をしております。猪村議員からの一般質問も、3 月だったですか、出ていたかと思えますけれども、交通事故が発生をいたしております。

それを教訓にといいいますか、開通前にしっかりと安全対策をとっていく上でも、また現状を皆さんと共有することが大事なことです。ですから今回質問に上げさせていただきました。

そういった中で、安全対策が必要な箇所が 4、5カ所あります。

伊万里方面から多久方面におりてくるところですけれども、伊万里方面から多久方面に向かう最初の交差点。ここから、最初の交差点から 20 メートル先は大きな交差点ですから信号機と横断歩道も設置してありますけれども、一番最初の市道との交差点には信号機もなければ横断歩道もついておりません。

外灯と左右認識標識についてはおりますけれども、こういった状況の中で信号機の設置基準、あるいは横断歩道も優先道路との兼ね合いで、いろいろ設置できないとか、横断歩道も設置できないというふうなことも聞いてはおりますけれども、非常に危険が伴う箇所ですよ。交通量も非常に多い。

そういった中で、以前はここは道路がなかったものですから、生活道路やったわけですよ。そこが、こういった危険箇所になってくるというふうなところですね。

また、今工事が進んでいる国道 498 号と、ここにバイパスが通ります。ここも 2カ所ほど危険なところがあります。

バイパスと市道がここに交差点が生じます。現地に行きますとここに横断歩道、また信号機がつけられるような状況では全くありません。

しかし、今の市道は利用をされております。集落が 8 世帯ほどありますから。あるいは田畑もありますから、ここを非常に利用されておりますけれども、ここが横断できなくなるのかどうか、そういった中で、市道との交差点の危険性が非常に増してくる。

ここが封鎖されますと、というかここに横断歩道等ができなければ、迂回路、里道の整備、あるいは市道への編入が、急いで整備をする必要が出てくるんじゃないかという判断をさせていただいております。

また、国道との合流点、ここも非常に朝夕は、もう出るためには 5 分も 10 分も待たないといかんと、武雄市内の国道と一緒にような交通量が今、この国道 498 号は交通量がふえております。

そういった中で、この合流点に信号機ができるのかどうか、いろんな形での地域からの要望もあっているかと思えますけれども、市もしっかりとこの辺は安全対策に取り組んでいかないと、事故が起きてからは遅いわけですから。

先ほど言った市道との交差点、あるいは今建設中の市道との交差点の中で横断歩道、信号機等が設置されるのかどうか、設置されなければどういった対応が、対策が検討されているのかどうか確認をさせていただきます。

御答弁をよろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。議員御質問の交差点につきましては、まず1点目でございますけれども、議員御指摘のとおり、信号機が設置されずに、現時点におきましては路面標示やカラー舗装、それから、看板の設置により注意喚起がとられております。

市道管理者といたしましては、バイパス開通後に状況の確認、それから利用される方の御意見を伺いまして、対策が必要かどうか見極めてまいりたいというふうに考えております。

それから2点目に御質問の交差点でございますが、若木バイパス開通後には相応の交通量が見込まれると思っております。しかしながら、交差点は平面交差となっており、議員御心配のとおり、市道から横断するには十分な注意が必要かと存じております。

安全対策の考えにつきまして杵藤土木事務所に確認したところ、地元から迂回路を利用した安全対策の要望が上がっておりますので、市といたしましても、地域の皆さんが安全に通行できますよう、土木事務所と協議を進めてまいりたいと考えております。

それから3点目に御質問の交差点につきましては、平成30年5月24日付で地元より武雄市へ信号機設置の要望がなされております。これを受けまして、武雄市から武雄警察署へ要望書を提出しております。回答を得ましたら安全対策について協議、検討してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番松尾陽輔議員

○11番（松尾陽輔君）〔登壇〕

便利になる一方、こういう危険箇所が町民の方々には出てきているわけですから、しっかりと、——国道の今、合流点ということも話もさせていただきましたけれども、伊万里と若木の境目も同じようなこういった合流点が発生しますから、ぜひとも。

そういった中でもう一点ですけれども、若木から武雄に出るときはいいんですけれども、武雄から若木町内に入るときが非常にまたこの危険性が伴うわけですから。若木から武雄に

行くときにはさほど危険性はないでしょうけども、武雄から若木の町内に来るときが、この交差点もう非常に危険性が出てきますから、市長、現場をもう一度再確認をしていただいて、——地域から要望が出てはおりますけども、市としてもしっかり町民、市民の安心安全を担っていただいている市長ですから、ぜひとも、後ろ盾をよろしくお願いを申し上げて、3番目の、30年度の高齢者福祉についてお尋ねをさせていただきたいと思います。

具体的には高齢者の絶対的貧困と相対的貧困調査ということで、お尋ねをさせていただきます。

高齢者福祉については今、先ほど山口議員も質問されておりましたけれども、多岐にわたっているいろんな対策が今後必要と考えておりますけれども、手元に第7次の計画があります。見る限りではもういろんな課題が山積みですよ。介護保険サービスの充実度、老人福祉施設の充実、生活支援の充実、認知症の推進の課題、高齢者生活環境の整備、健康生きがいつくりとか、いろんな形の課題がここに書かれております。

ただ、そういった中で課題が多過ぎて何から取りかかっているのかどうか、市民の皆さんも、どこがどうやって変わっていくのかどうか、どこを武雄市は最重点施策として取り組んでいただいているのかどうかということで、なかなかこの計画書は、——よく分析というか、計画も立てておられると思いますけれども、そしたら具体的に、一番何に武雄市は取り組もうと、今後の高齢化社会に対して何に取り組もうとされているのか、具体的に。

またその原因は何かということで、つかんでおられる状況で結構ですから、御見解をお尋ねをさせていただきたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

岩瀬福祉部長

**○岩瀬福祉部長〔登壇〕**

武雄市の高齢者の一番の現状ということですが、言われるように、武雄市では今年度を含め地域包括ケアシステムということに最重点を置いていきたいというふうに考えております。

これは何かといいますと、ふえる高齢者に対して支援する施設等、あるいは介護職の人員が不足しているという状況ですので、地域でそういう方たちを見るということで、特に地域包括ケアには力を入れていきたいというふうに考えております。

先ほど言われた、この一番の課題は何かと言われていますが、まず一つは少子高齢化を背景とした独居老人の世帯や高齢者のみの世帯の増加。それと家族が遠方に住んでいる老老介護や、認認介護などの問題。あるいは認知症高齢者の増加、あるいは先ほども言ったように介護サービスの人員不足等々が挙げられるかというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

11 番松尾陽輔議員



**○11 番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

これはもう福祉政策、高齢者福祉に関しては奥が深いといえますか、いろんな対策を今後講じていく必要があるかと思えますけれども、以前というか、ことし3月の一般質問の中で教育行政の中で、子どもの生活実態アンケート、集計結果を受けて、子どもの貧困対策についての状況をお尋ねをさせていただきました。

ただ、子どもの貧困と同じように、また子どもの貧困以上に、今回地域を回る中で、高齢者の貧困が非常に、私自身対策が、高齢者に対する貧困対策の必要性を痛感させていただいた1人でもあります。

今回、市長も3億円パッケージということで、高齢者福祉に対しての思いやりがこの予算に含まれておりましたけれども、バス、タクシーの助成券の配布、あるいは商品券の販売、あるいは地域コミュニティづくりの事業の交付金と、いろんな形で3億円のパッケージ資金が今年度実施をされていますけれども、一方で、たっしゅか商品券、プレミアム商品券を買いたくても買えない人、あるいはお出かけ、出かけたいけども出かけられない状況にある人も現にいらっしゃるわけですよ。

そういった方々、要は絶対的貧困者といえますか、その辺もしっかりと把握しながら、こういった方々にもしっかりと対策を講じていく、きめ細やかな対策を講じていくという必要性もあるかと思えますけれども、その辺に関しての対策は講じられておられるのかどうか、御確認をさせていただきます。

御答弁をよろしくお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

岩瀬福祉部長

**○岩瀬福祉部長〔登壇〕**

議員が御指摘の高齢者の実態把握はしているかという問い合わせにつきましては、それにつきましては実態は調査を行っておりません。

ただ現在、健康課では在宅介護支援センターのほう、市内に6カ所、特養御船荘、あるいはひいらぎ、特養そよかぜの杜、杏花苑、それと老健のコスモス、老健のたんぽぽで事前にいろいろ調査をしていただいて実態把握に努めております。

それと同時に、各地区に民生委員がいらっしゃいます。民生委員さんから情報提供、あるいは調査、そういう相談等々については耳を傾けて調査をしております。

**○議長（杉原豊喜君）**

11番松尾陽輔議員

**○11 番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

こういう貧困、絶対的貧困、相対的貧困の調査はしていないということですが、民生委員等で情報は収集しているということでしょうけれども、実際に商品券を買えない人

がいらっしゃるわけですよ。

あるいはお出かけ、タクシーで市内に買い物に、しかし買い物するお金もないというふうな方々も中にはいらっしゃるということ、どっかに置いていただいて、先ほど言いましたきめ細やかな政策も、市長ぜひともとっていただきたいと思えますけれども、この件に関しての最後の質問にさせていただきますが、市長のこういった方々に対する思いといいますか、施策に関してはどのようなお考えであられるかお尋ねをさせていただきます。

**○議長（杉原豊喜君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

先ほど部長が答弁をいたしましたけれども、さまざまな負担の軽減ですとか、あと生活困窮者自立支援制度ですとか、いろいろな取り組みを現在行っております。

今後も引き続きしっかりと実態把握に努めて、そしてそこで本当に必要なものがその調査からはっきりすれば、そこについてはちゃんと市としてもその手当を考えていきたいと、そのように思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

11 番松尾陽輔議員

**○11 番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

ぜひよろしく願いをいたします。

しっかりと実態を掌握していただいて、そういった方たちにもきめ細やかな対策、高齢者福祉政策をよろしく願いを申し上げながら、最後の質問をさせていただきたいと思います。

通告では、一部質問の順番を変えさせていただいて、まずヘルプマークの推進、2つ目に登下校時のICタグ、最後に母子手帳アプリについて、導入についてお尋ねをさせていただきます。

ヘルプマークの推進についてでありますけれども、皆さんこういった国際マーク、障がい者マーク、あるいはオストメイトマーク、聴覚障がい者マーク、視覚障がい者マークは目にされたことがあるかと思えますけれども、外見がわからなくても援助や配慮を必要としている方々、周囲の人たちに配慮を必要としていることを知らせることができるマーク、これをヘルプマークといいますけれども、27年3月、今から3年前に私、一般質問の中で、ぜひ市長、ヘルプマークを導入したらどうですかということで質問をさせていただいて、そのときの市長の答弁が、市の単独よりも県で取り組んだほうがいいですよと、より効果が出てきますよということで答弁をいただいております。

市長、私のほうからも知事に積極的に働きかけて、いち早くこういった形の外見からわからなくても援助や配慮を必要としている方々にこういったマークができるよう県にも申し

上げておきますということで3年前答弁もいただいて、私からも提案をさせていただいて、県議会のほうでも公明党議員を通じて県にも要請を、強く要望もさせていただき、一般質問等もさせていただきながら、今回やっとこういう制度というか、配布が決定をいたしました。

きのう、おとといでしたか、佐賀新聞にも一面に、見えにくい障がい、気づいて、ということで、県が来月にも各市町村に配布しますよということで一面に、——決裁、認可がどうか、交付の事業となっております。

そういった中でこういったところに下げて障がいがあるということで周知をしていただくということで。

4月の選挙のときにもお母さんと障がいの方と投票に来られて、この子は障がいがありますよということと言わなかったのしょうがないかもわからないけれども、お母さんが寄り添ってさせていたときに注意を受けたと。そこまでしたらいかんよと注意を受けたと。

そいぎ、その障がいを持っていた人がびっくりされて、なかなか、もう二度とじゃなかですが、次の選挙はなかなか行きたがらないというような状況とか、あるいは市内を若干、徘徊ではないでしょうけども、歩きながら、ちょっとなかなか、警察に通報されたということも聞かれておりますので、こういった不快感等も解消できるようなヘルプマークですから、しっかりと当市でも申請者には配慮ある対応をぜひお願いしたい。また、各企業等へもこういったヘルプマークの実施を周知できるような体制をとっていただきたいと思っておりますけれども、御見解をお尋ねをいたします。

#### ○議長（杉原豊喜君）

牟田福祉部理事

#### ○牟田福祉部理事〔登壇〕

おはようございます。ヘルプマークの取り組みについては、松尾議員より27年の3月議会において御提案をいただいております。その後、市から県のほうにも要望をしてまいりました。こうした働きかけもあって、このたびヘルプマークの導入が実現をいたします。

県が作成をいたしまして、7月にも県の機関や市町等を通じてヘルプマークを配布する予定となっておりますが、市としては県と連携をいたしまして、内部障がい、難病の方、それから妊娠初期などの方など外見から障がいの状態がわからない方でも援助や配慮が得やすくなるように配布を行ってまいります。

なお、この交付に合わせ大事なことは、このマークを広く市民の方に知っていただくことであると考えております。障がいが見てわかる方に配慮が必要であると同様に、ヘルプマークを見かけたときは、見えにくいに気づいて配慮することが必要であると考えております。

日常のいろいろな場面でお困りのことがあろうかと思っておりますけれども、例えば電車やバスで席を譲るとか、困ったときは声をかけるなど、周囲が思いやりのある行動ができるよう

に、制度の普及、啓発を進めてまいります。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

11 番松尾陽輔議員

○11 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

よろしく願いをしておきたいと思います。

それでは次の提案事業、登校時の I C タグの導入にということで提案をさせていただきますけれども、ちょっと時間も押し迫ってきましたので。

児童生徒の防犯対策についてもことしの3月の一般質問でドライブレコーダーを公用車につけて、抑止力のためにつけたらどうですかと、あるいは犯罪が起きたときの証拠等にも活用できるんじゃないかということで提案をさせていただいたんですけども、なかなかまだ実現に至っておりません。

そういった中で子どもたちは防犯ブザーを身につけていますけども、I C タグというのが今、奈良県で検討されております。

武雄市も I C T 教育には全国的に先駆けているいろんな対策というか、いろんな教育上、積極的に取り組んでいただいておりますけれども、こういった I C タグもぜひ、I C という部分の中で全国的に先駆けてでも取り組む必要があるんじゃないかと。

もう時間も迫ってきましたので、——声かけ事案とか、武雄市も先月でしたか、不審者が出たということで報道というか、なされておりました。

そういった中で不審者、あるいはいろんな事件等も今あちこちで全国的に起きていますので、こういった I C タグ等も今後研究していただいて導入の方向を検討していただくよう、よろしく願いを申し上げて、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で11 番松尾陽輔議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、5分程度休憩をさせていただきます。

休	憩	10時58分
再	開	11時7分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、4 番山口等議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。4 番山口等議員

○4 番（山口 等君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんこんにちは。議長より登壇の許可をいただきましたので、

ただいまから山口等の一般質問をさせていただきます。

今回は大きな項目で4つ。

1つ目に、まちづくりについて。

2つ目に、道路行政について。

3つ目に、子育て支援について。

そして最後に、高齢者福祉対策について質問をさせていただきます。

では、早速始めさせていただきます。

初めに、まちづくりについてであります。

先ほどから質問にもありましたが、5月12日、秋田竿燈まつりIN武雄が開催されました。

25年前の感動を再びと集まった観衆が何と8万人。武雄市始まって以来のにぎわいでありました。市民の方、多く集まられたことだと思います。また、県外からもたくさんの方が訪れた事と思います。

そんな中で、祭りを終えて、市民、また、観衆の方からの意見等はどのようなことが聞かれたのか、まず初めにお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

神宮営業部長

○神宮営業部長〔登壇〕

おはようございます。秋田竿燈まつりをごらんいただいた皆さんの声ということでございますが、市民の皆様や各種団体の席でいただいた言葉といたしましては、大変よかった、感動した、それから、武雄のまちにこんなにたくさんの人が集まるとはびっくりした、秋田に行って本場の秋田竿燈まつりを見たいと。秋田と武雄の関係をこの祭りを機に知ることができたなどのお言葉をいただきました。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

本当に、私自身も目の前で見ましたが、皆さんと一体感のある、どっこいしょ、どっこいしょという声ですね、本当に武雄の、また元気をいただいた一瞬でございました。そんな中で、1日のイベントではありましたが、武雄市としても大変潤ったかと思えます。

そんな中で、経済効果は果たしてどのくらいぐらいあったのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

神宮営業部長

○神宮営業部長〔登壇〕

経済効果でございますけれども、当日は、市はもとより県内外から8万人の来場者がございました。観光消費額に換算いたしますと約5億円と試算をしております。また、新聞、テレビ、雑誌など、多くのマスメディアに取り上げていただき、その広告効果は掲載を把握している分で約4,500万円と算出をしております。

それらを総合的に換算いたしますと、経済波及効果にいたしましては約9億円となります。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

本当に武雄市にとって今回の竿燈まつり、いろんな意味でよかったかと思います。

そんなことで、今回、武雄の楼門から松原交差点、また、西浦の交差点、新庁舎付近と通行どめの規制をしてのイベントでありました。これも初めての歩行者天国等ございました。

このような体制で今回、祭りができたこと、今後のいい事例になったかと思います。年に何回もというわけにはいかんと思うんですけども、こういった形での祭り、また、物産まつり、武雄の春まつり等ができないものかどうか。

このことは昨年12月に、私自身がこういった形で道路を使用しての祭りを行ったかどうかという提案をさせていただきました。そのときの市長答弁では、この5月12日の竿燈まつりを参考にして見据えていきたいという答弁ではございました。

実際この5月12日に祭りが行われましたけれども、市長は今回どのように思われたのかまずお聞きいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今回、楼門から本町通り、松原通りを通行どめにして、要は、お祭りをやったわけですが、そこに至るにはかなり長い時間の警察協議であるとか、安全対策の検討というのがなされてきたところであります。

ただ今回、竿燈まつりを行ったことで、いわば道路とか公共空間をこういうふうにご利用できるという、そういう先例になったんじゃないかなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

このことが今後のいろんな祭り等のイベントにも生かされていければなと思っております。

す。

武雄市は、この8月に子どもたちを竿燈まつりに派遣をすると。また、10月に武雄市民の方に、募っていただいて、秋田市を訪れる企画があります。

このことについては、今回の補正予算の中身に触れますので言いませんけれども、今後、秋田市との交流をどのように考えておられるのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

秋田竿燈まつり I N武雄の開催につきましては、これまで武雄ロータリークラブ様が長年秋田との交流を続けていただいたことが今回の実現につながったものというふうに考えております。

今後、どのような交流ができるかにつきましては、相手様もあることですので、現在ではまだ、未定ではございますが、今後も市民レベル、また、民間レベルの交流が末永く続いていただくことを期待しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ほとんどの方が、今回の秋田竿燈まつりのことを尋ねたら、本当によかった、元気がでたばいという声がどこからも聞こえました。

警察協議とか、安全対策等、本当に大変だったと思います。

そんな中で皆さんと一緒にあって――先ほど言いましたけれども、どっこいしょ、どっこいしょのですね、かけ声、その一体感があふれて、本当に8万人の方が酔いしれた一日でございました。何だか武雄市が本当にこう、元気をいただいたような気がします。

これから先、歴史と文化のある秋田市と、ぜひとも深い交流を進めていってほしいと思います。

では、次の道路行政について質問をさせていただきます。

市道五反田山下線でございます。

この道路は今のトライアルができたところの大きな市道でございます。東のほうには武雄支所の、JAのですね、武雄支所があるわけなんですけれども、このそばには、こども園、保育園も開園いたしました。そして、元トライアルがあったところには、また大型店舗が建設中でございます。

その中で、市道小楠永島線になるんですけれども、今、橋梁のかけかえ工事があっております、戸樋渡橋ですね。これが来年3月には開通するというのを聞いております。そうなった場合は、ここを訪れて伊万里、武内方面に行く方が非常に多くなってくるかと思いま

す。

そんな中で、武雄中学校の近くのですね、五反田山下線の終点になるんですけれども、武雄中学校の交差点付近がこのように狭くなっております。

ちょっと上から見た写真なんですけれども、これが市道五反田山下線ですね。こちらのほうが新武雄病院なんですけど、そこにSUMCOの寮、また、JAオートパルたけおがあって、ちょうどこの交差点、ここが武雄中学校東交差点というんですけれども、ここの交差点の一番近いところですね。ここが4メートル50センチほどしかございません。特に左折、右折される方が、非常に通りづらくなっているような状態。また、買い物客も多くて自転車等も多く通行されています。そういったところで非常に危険性も高くなっている状態でございます。

そこで、道路管理者であります武雄市としては、このような状況をどのように把握されているのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

御質問の市道につきましては、議員御指摘のとおり交差点付近で道路幅員が狭くなっており、通行しづらい状況にあります。市道管理者として拡幅等の必要性は認識しております。

また、新武雄病院横の橋梁工事も今年度中には完成いたしますので、御指摘いただいております交差点付近の交通量が増加することは十分に想定されます。今後の交通量の変化に注視し、対応を検討してまいります。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

近くには中学校もございます。こういった支障物件もあるわけなんですけど、この移設には時間も要します。それから来年3月には市道小楠永島線も開通するということですので、できるだけ早く、このあたりの交通対策を十分にとっていただきますよう、どうかよろしくお願いたします。

次の道路行政の2つ目の質問に移らせていただきます。

武雄温泉駅の北側の道路、永松道路とちょっとっておりますけれども、こここのところの質問をさせていただきます。

現在、駅南側の永松川良線の整備が進んでまいりました。これが高架から南側を見たところの状況でございます。

現在の永松公民館付近の交差点を右折していただくような誘導がなされております。左



のほうに行けるんですけども、右折をお願いしますというふうな表示で、右側のほうに行くような状況に誘導をされております。

この赤の印ですね。公民館から駅に続く、こんな感じのちょっところ、クランク状態といますかね、そういった状態で進行していただくように誘導をされております。

そこをですね、今回このような形で進むような整備を早急にできていけばなど、できないかという提案でございます。

永松公民館を左折しますと、今はこのような状態でございます。ここのところを右折をして、駅前のこの通りに出る。ここのところはもう整備が大体終わるとるわけなんですけど、ここを通過して、高架をくぐって、駅の南側に出るというルートを何とか早く整備できないかという提案でございます。

行った先はこんな状態であるわけなんですけど、そういったことで、駅の前に出るのが、非常に出づらい。いつまでああいう、くにくにとした状態で進まにゃいかんのだろうかという声もたくさん聞いております。

そういったところで、この辺の整備の状況、どのように考えておられるのか、よろしくをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

御質問の路線につきましては、地権者の御理解、御協力をいただき、先月をもってすべての補償契約は完了しております。

整備につきましても、年内の完成を目途に進めてまいりたいというふうに考えております。

なお、完成後は速やかに車両を誘導できるよう努めてまいります。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

できるだけ早い整備をお願いしたいんですけども、ただ、現状を見ますと、武雄温泉駅北口の横断歩道のところに信号機があるんですね。そして、今度のこの交差点までつちゅうのは、恐らく70メートルぐらいしかないんですよ。

そういったところで、いろんな警察協議が大変だと思うんですけども、なかなか信号なしでは右左折、そして、また直進がですね、できるような状況ではございませんので、そのあたりは、しっかり市民の声を聞いて、ぜひ信号の設置をお願いし、交通のスムーズな運行をよろしく願いいたします。

それでは、次の質問に移らせていただきます。

3つ目の質問です。

子育て支援についてであります。

佐賀県は今年度、子どもの貧困対策ということで、子どもの居場所を推進していくということを上げられております。

平成 28 年度でしたか、子どもの貧困についての実態調査がなされたと思います。浅井副市長が主になって行っていただきました。そのことの再確認をさせてください。よろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

モニターをお願いします。

（モニター使用）平成 28 年度に子どもの貧困に係る調査として、武雄市子どもの生活実態調査を実施いたしました。

そのアンケート調査の結果をもとに、家庭の経済的な状況だけでなく、子どもとそれを取り巻く家庭環境全体に焦点を置き、世帯の年収のほか、保護者の 80%以上が必要だと回答がありました3度の食事、必要な通院など、子どもに必要な環境、ものが与えられているか否か。

そして、衣食住に係る困窮経験の頻度など、3つの指標を設定し、このいずれかに該当する世帯を、子どもの養育に関して困難度が高い世帯として分類をいたしましたところ、19%の世帯が該当する結果が見られております。

○議長（杉原豊喜君）

4 番山口等議員

○4 番（山口 等君）〔登壇〕

19%の高い割合で貧困だということを言われております。

この居場所づくりに関して県はどのような対策を、取り組みをしていこうとされているのか、まずお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

県の取り組みでありますけれども、県におきましては、今年度、単年度の事業として地域の子どもたちのために継続して学習の支援や食事、遊びの提供を行う団体を対象といたしまして、子どもの居場所拡大事業が実施をされます。

この事業は、居場所の開設等に必要な経費の補助とあわせまして、居場所開設者への開

設や運営、ノウハウに関する情報提供などを行う開設支援コーディネーターを設置するものであります。

県におきましても、今後も子どもの居場所づくりを行っている団体、関係者への情報提供、意見交換会の開催、交流サイトの新設などを行い、地域におけるネットワークを構築し、将来的には市民団体主導で継続できる体制づくり、仕組みづくりを推進していく方針となっております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

県としては、今言われたように、居場所づくりの拡大、また、体制づくりについて取り組んでいくということなんですけれども、武雄市としては、どのような取り組みを具体的に今、考えておられるのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浅井副市長

○浅井副市長〔登壇〕

武雄市として子どもの居場所づくりということなんですけれども、基本的に居場所づくりというのは関係者が連携をして、自分の居場所と思えるような場所というのを提供する支援というところが重要視されているという状況です。

そのような中で武雄市としては、行政としてですけれども、放課後児童クラブ、放課後子ども教室の実施に取り組んでいると。

また、子どもの居場所づくりというのは、地域づくり活動にもつながるものなんですけれども、それらの支援として、新規を始める場合には武雄市ががんばる地域応援事業補助金、また、継続的なものとしては武雄市地域コミュニティ活性化事業補助金による支援も可能としているという状況であります。

先ほどの、県の子どもの居場所拡大事業というのもありますし、また、国でも子供の未来応援基金というもので、活動支援できるという仕組みもあります。

子どもの居場所づくりは、市の行政だけではうまくいかない。また、市民団体などだけではうまくいかない、地域だけでもうまくいかない。これらがいかに連携して行っていくかというのが一番大事なことだというふうに考えております。

そのような中で、ほかの自治体の事例も行政としては研究しながら、市民団体さん、地域との意見交換を積極的に行って、どのような制度を活用すれば、また、一つではなくて、ほか複数のものを組み合わせるとか、そういう形も行うことで、継続的にどういうふう子どもの居場所を確保していくかというところを一緒に考えていきたいというふうに考えてお

ります。

そのために、市民団体、地域、学校、行政が連携して、よりよい武雄市の子どもの居場所というのが確保できるように目指して取り組んでいきたいというふうに考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番山口等議員

**○4番（山口 等君）〔登壇〕**

ありがとうございます。

我々の地区では、この居場所づくりで、もう丸2年ほどなるんですけども、毎月2回、第2、第4水曜日の3時過ぎから、なかよし川良っ子というのを開設しております。毎回20名ぐらいの子どもたちが3時過ぎに来て、一緒に勉強して、その後ちょっと遊ぶという、そういう見守りをやっているわけなんですけれども。

5月9日でしたかね、朝日町中野区の長寿会の方から現地を見させてほしいということで、老人会の会長さんが、ちょっと見させてくれんやろかということで見えました。

それで、何かこういろいろお話ししよったところ、今週から中野区でもこういった子どもたちを見守る活動をやっていくそうでございます。

そういったことで、我々の川良っ子も定着しつつあるんですけど、またこの7月には、年に2回のカレーの日を設けてカレーを腹いっぱい食べていただいて、そして一緒に楽しく遊ぶという企画も今現在、考えております。

今回、子どもたちの遊びは近くの川でもって、川遊びしようということで、子どもたちも非常に楽しみにしているわけなんですけれども、その中で、こういった活動をずっと通して我々やっておるんですが、教育長、どのように考えておられるのかお伺いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

なかよし川良っ子のような取り組み、何回かお邪魔しましたが、地域の方と子どもたちの交流が、最初のころとは違って非常に自然な交流といいですか、本当に居場所になっているなという感じを持っております。

それと、学校からもきょうは、なかよし川良っ子がありますというような情報も出されております。先生方も時には見えておられるということで、地域の方と学校、当然、家庭もですけども、その連携が非常にうまくいっているなという印象を持っております。

したがいまして、区長さんを先頭に、地域の子どものをしっかり育てようという環境をつくっていただいているというふうに思っております。

また、先ほど話がありましたように、ほかの地区でも、お知らせをいただいております。同じようなことを、さらにその地域ならではの取り組みをしようとしているということで、

大変ありがたく思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

このようなことが、これから先いろんな地域でどんどん進んでいくことを私自身願っているわけなんですけれども、どうしても学校と地域、そして保護者との連携がいかにか大事かと思えます。

そんな中で教育長、我々に今後どのようなことが、何か望まれるようなこと、何かございませんでしょうか。伺いたいします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

川良の皆さんを初め、いろんな形で地域の方がかかわっていただいているわけです。

モニターをお願いします。

（モニター使用）これが27年、28年、29年の不登校傾向の子どもさんも含めた児童数の数字であります。小、中ともに30日未満のわずかな日数でも、欠席でも、ちょっと心配だという方の数まで入れた数でありまして、基準は変わっていないわけです。この3年でずっと低くなっております。

問題行動発生の推移であります。中学校であります。平成25年から昨年度はこういうふうにならずと、下がってきております。

特別に、じゃあこの3年か4年で変わったことというのは何なのかなというふうに思いますと、花まる学習を初め、地域の方がたくさん、学校とかかわりを持っていただいていると。また、この川良っ子のように、地域の方が子どもたちと自然な形で触れ合って、声をかけられる状態にいただいていると。教育環境としては、極めて素晴らしい環境になってきつつあるんじゃないかなというふうに思うわけです。

地域の方が学校に出向いていただく、大変負担だという声も聞いておりましたけれども、最近では、入っていただく方にとってもプラスな面を見出しているということで、すべてがその地域の皆さんとのかかわりではないかもしれませんが、絶対にこれは要因になっているだろうというふうに思っており、そういう意味で、川良っ子に望むところというところでございますが、できたら継続していただいて、なおたくさん子どもが自然に参加できるような環境をつくっていただければというふうに願っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。

私自身もちょっとかかわってはいるんですけども、やっぱり子どもたちのその信頼関係といえますか、先ほど言いましたように、もちろん地域、学校ですね、そういった保護者との一体感ちゅうのは、必ず連携とりながらということは必要なんですけども、やっぱり子どもたちとの信頼感、これが本当にですね、大事なんだなということを痛感しました。

これから先もですね、地域にあった形でしっかりと継続をしていきたいと思っております。

では、最後の質問に移らせていただきます。

高齢者福祉対策でございます。

武雄市は今年度、高齢者の元気がまちの元気ということを銘打ってですね、お出かけを応援するお出かけ応援券等を掲げておられます。

そんな中で、高齢者の医療費といえますかね、こういうのも年々上がっているのが実情だと思います。

今の武雄市の高齢者の医療費は大体どれくらいぐらいかかっているのか、まず伺いたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

岩瀬福祉部長

**○岩瀬福祉部長〔登壇〕**

高齢者の医療費はどれくらいかかっているかということですが、平成 25 年度の 65 歳以上、74 歳までの国保の方と、あわせて 75 歳以上の後期高齢者の方ですが、25 年度につきましては 110 億円、26 年度につきましては 113 億 4,000 万円、平成 27 年度につきましては 114 億 5,000 万円、平成 28 年度につきましては 113 億 2,000 万円と、多少の増減はありますが着実に増加傾向にあります。

**○議長（杉原豊喜君）**

4 番山口等議員

**○4 番（山口 等君）〔登壇〕**

高齢者の医療費が、平成 25 年度が 110 億円。26 年度が 113 億 4,000 万円。そして、平成 27 年度が 114 億 5,000 万円。本当に高額の医療費がかかっているわけなんですけれども、だれもが元気で長生きしたい、そう願ってはいるわけなんです。

それで、この今回のこのような施策も、いつまでもというわけには、経済上いくわけにはいきません。

そういったことで、今回の提案なんですけれども、ラジオ体操の奨励をぜひお願いできんかなど。私自身、もう 8 年ぐらいラジオ体操にかかわってからなんですけれども、きょうも雨が降っておりました。しかし、約 10 名ぐらいの方が元気に挨拶して、天満宮にラジ

オ体操に来られております。

こんな中で、このラジオ体操の奨励をした場合、本人の健康の維持、また、高齢者の健康状態の確認、また、地域コミュニティが図れる、それと災害時の対応がスムーズにいくなど結構メリットも多いかと思うんです。

そういったことで、このあたりのラジオ体操の奨励というものをどのようにお考えなのかお伺いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

岩瀬福祉部長

**○岩瀬福祉部長〔登壇〕**

住民主体の活動としてのラジオ体操を毎日継続し、地域活動として行うことは、高齢者の介護予防や、安否確認、災害時の対応にも効果的だと考えております。

今後も高齢者が増加していく中で、地域で見守り合う活動の拡大が重要と考えております。その中では有効な手段と考えております。

また、ラジオと、軽い運動ができるスペースがあれば手軽にできますので、これについても、できるだけ広報等を進めていきたいなというふうには思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番山口等議員

**○4番（山口 等君）〔登壇〕**

先ほど言いましたけど、毎朝、まあ日曜日だけは休みなんですけれども、毎朝6時半からNHKのラジオでやっておるんです。

けさちょうど6時半過ぎでした。熊本で地震がありましたということで、ラジオ体操は一時中断したんですけれども、毎朝、元気よく挨拶して、そして、始まる前にお互いがいろんな雑談をしながら、特にきのうは地区でミニバレーボールの大会がございました。そういったお話とかですね、いろんなことをされながら一日をスタートされております。

特に今来られている方の、一番高齢が89歳です。おばあちゃんなんですけれども、この方がほとんど、年に恐らく2、3回ぐらいしか休みになりません。本当、元気です。

私自身もこの方から、毎朝挨拶して、元気をどれだけいただいていることか、本当にはかり知れないものがあります。

やっぱり気持ちが若いんですね。もう1日、この後、何しよう、何しようということで、本当に健康の維持、これを本当に、何がラジオ体操やということかもわかりません。しかし、本当に10分の、朝の挨拶をしながら体を動かす。そして、いい1日のスタートを切る、このことは本当の健康の維持に、皆さんなっておるんじゃないかと思えます。

松原副学長ですかね、東洋大学の副学長も武雄に来たときは必ず我々のラジオ体操に参加をされております。また、小松市長も何回かお見えになったことありますけれども、小松

市長、このことについてどういうふうにお考えなのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

モニターに出ているように、ラジオ体操にはいろんな効果があるなというふうに思っています。気軽に参加できて、そして健康づくりの習慣ができると、つながりができるというところで、私は非常にラジオ体操は、個人的にはいいなというふうに思っております。

市内各町、各地区で、さまざまな健康づくりの取り組みがなされています。ちょうど私も先日、たまたま西川登の公民館に行ったら、音楽サロンというのがされてて、ちょっと、音楽で健康づくりというようなことをされていました。

ほかにも百歳体操ですとか、それぞれいろんなところで、いろいろなことがされているというふうに思います。

意外と、ほかのところで何やっているかというのは、なかなかわからない部分もありますので、そこは、とにかく市内でこういう取り組みをいろいろやっているというような事例であったり、そういったものを、やっぱり情報を共有して、紹介をしていくというところをしっかりとやっていこうと思いますし、ぜひきょうの議会をごらんになられている市民の方も、ああ、ラジオ体操やってみようかと、これも一つ大きなきっかけだというふうに思っています。まずは取り組みを知ってもらおうというところを積極的に進めてまいりたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

本当に気軽にできるのがこのラジオ体操です。

しかし、なかなか継続が難しいのも事実です。けさも雨が降っていましたが、傘を差して来られました。先ほど言った、89歳のおばあちゃんですね。

そういったことで、年々高齢化が進み、医療費も増加するばかりでございます。今、我々が取り組んでいるこのラジオ体操、もう8年になりますけれども、これから先も一緒になって、また続けていくわけなんですけど、ほとんどの方が雨が降ろうと、幾ら暗かろうと、毎朝元気に集まっています。

私自身もですね、この方たちから本当に元気をいただいているのが実情でございます。やっぱり継続が力なり、また、継続が健康なりでございます。

冒頭、竿燈まつりのことを言わせていただきましたが、本当に今回の、竿燈まつりでも元気をたくさんいただきました。本当に大成功だったと思います。また御苦労さんでございました。これからも、さらなる武雄市の福祉の維持向上に向けてですね、頑張ってもらいたいと



思います。

最後に言います。

継続は健康なりでございます。

どうもありがとうございました。

質問を終わります。

**○議長（杉原豊喜君）**

以上で4番山口等議員の質問を終了させていただきます。

若干時間が残っておりますけれども、ここで議事の都合上、午後1時10分まで休憩をいたします。

休	憩	11時44分
再	開	13時10分

**○議長（杉原豊喜君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、20番江原議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。20番江原議員

**○20番（江原一雄君）〔登壇〕**

質問させていただきます。

合併以来4回目の議員改選がありまして、今回、第1回目の定例会です。私もこの間、市民の皆さんの声を代弁して、初心に返り質問をいたしたいと思います。

まず最初に、教育行政について。その一つ、就学援助制度についてであります。

これまで就学援助制度について何回か質問させていただきました。

言葉の由来も含めてですけど、これまでも要支援、もといよ保護、準要保護という言葉がありました。しかし今回、昨年からの市のホームページに、この就学援助制度の中身についてホームページに掲載をされるようになっていきます。

就学援助は小中学校に通学するお子さんのいる世帯で、経済的な理由により、学用品や給食費の支払いにお困りの家庭に対して必要な経費の一部を援助する制度であります。現在、小学生で4万600円以内、中学生で4万7,400円以内。こういう国の制度のもと全国で取り組まれています。

全国では標準として、生徒数の約15%の皆さん方が経済的援助のもとでこの制度を利用されている。県内で見ても12%。かつて武雄市では6%、7%、合併時点のころでした。

私は一昨年、特に新入学児の学用品の支給日をこれまで7月だったのを入学前にすることを求めてまいりましたが、この実施が入学前の3月支給ということで進めてまいられました。

この間、3年ほどたっていますけれども、この制度を利用されている方の推移について、

まず質問させていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

入学用品費の認定者の推移ということでよろしいでしょうか。

推移ですけれども、平成 28 年度につきましては、新小学生の 1 年生で 34 人、新中学生で 45 人、計 79 名で、29 年度につきましては、新小学校 1 年生で 44 名、新中学 1 年生で 70 名、計 114 名となっております。

今年度の認定者数につきましては、新小学 1 年生で 51 名、新中学 1 年生で 56 名、計 107 名となっております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

20 番江原議員

○20 番（江原一雄君）〔登壇〕

モニターお願いします。

（モニター使用）この就学援助制度につきましては、先ほど申しあげましたように、市のホームページに、武雄市教育委員会のホームページの中に就学援助制度、先ほど申しあげましたけれども、制度の内容、目的、対象、援助内容について、るる掲載をされております。

本当にこの制度を、特に武雄市、小松市政のもと、子どもの貧困問題に取り組む中で、本当に制度の中で、私はこの就学援助制度は、該当する人にとっては制度を周知徹底すること、これが重要だということを申しあげてきましたし、市のホームページに、その制度内容についても掲載されていることは、保護者の皆さんにとっても大変、制度を知らせる上で大きな役割があるかと思っています。

今現在、先ほど言いましたけれど、新入学児の皆さんの制度の活用について、やはりこの制度が充実しているのではないかと。

2 つ目にお伺ひしたいのは、今現在、申請され、この制度を利用されている方の数字について説明いただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

平成 30 年度の就学援助該当者の数ですけれども、小学生で 310 名、中学生で 178 名、計 488 名となっております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番江原議員

**○20 番（江原一雄君）〔登壇〕**

私はこの制度が——先ほど申されましたように、小学生で 310 名、中学生で 178 名、合計 488 名。これ分母が、4,061 名に対しますと 12.0%です。

先ほど申しましたように、12%は——本当に国の率、県の率、申し上げましたけど、やはり市内の保護者の皆さんたちも、やはり制度そのものをやっぱりこういうホームページで見てですね、そしてまたこの間、新入学児は、秋に行われます入学時の説明会のときにこの制度を知らせる。それと、在校生保護者の皆さんにも毎年、この制度をチラシを通して周知徹底するべきだということを申し上げてまいりましたけれども、昨年、ことしと在校生についても、この制度の周知徹底のチラシ等について、配布されているのかお尋ねしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾こども教育部長

**○松尾こども教育部長〔登壇〕**

保護者への通知につきましては、各小中学校から全保護者へ、学校からのお知らせという形でチラシで周知を行っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

20 番江原議員

**○20 番（江原一雄君）〔登壇〕**

このホームページの中に、就学援助を受けることができる方ということで、所得基準認定モデルとして示されております。

3人世帯で、両親と子ども1人、所得額として 235 万円。4人世帯で両親と小学生、子どもさん2人いて、モデルとして 289 万の所得以下の皆さんには、この該当制度として、こういうホームページに載っているわけですがけれども、これも含めて、先ほど部長が申されたチラシについては、この内容についても、ちゃんと配布されているということでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾こども教育部長

**○松尾こども教育部長〔登壇〕**

就学援助制度についてということで、全世帯に配布しているチラシにつきましては、援助の内容等について掲載しておりますけれども、その所得の内容については詳細には掲載しておりません。

ただ、もう一点、チラシといたしまして、小学校、あるいは中学校に入学予定のお子様へというチラシもあわせて配布をしておりますけれども、そのチラシの中には所得要件等の内容について掲載をいたしております。

**○議長（杉原豊喜君）**

20 番江原議員

○20 番（江原一雄君）〔登壇〕

ホームページにはちゃんと載っているわけですがけれども、この該当する所得基準認定モデルとして、それもあわせて、毎年、周知徹底するというのが私は必要かと思えます。

特に今日の就労状況、そしてパートの御家庭の比率が高い。いわゆる正規、非正規での所得格差の問題を含めて、私は本当に制度として、やっぱり周知徹底するということが必要ではないかと思えます。

教育長いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

先ほど御指摘を受けました制度の内容については、新入学の生徒の保護者の方にやる分と、毎年、学校から配布しているチラシの内容を改めてもう一回精査をして、統一させるべきものは統一をしていきたいというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

20 番江原議員

○20 番（江原一雄君）〔登壇〕

さきの一般質問の中でも、いわゆる子どもの貧困アンケートの中で、19%という数字とか、年収 250 万円以下という数字が答弁であっておりましたけど、この就学援助制度の所得基準認定モデルでは、あくまで目安ですけれども、所得額として 4 人世帯、標準世帯で 289 万円以下の保護者の皆さんは該当するわけですので、本当にこの制度を周知徹底していただきたい。

そして、現物給付なのか、銀行振り込みなのか、そこはいかがですかね。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

すみません、ちょっと確認をさせていただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

20 番江原議員

○20 番（江原一雄君）〔登壇〕

じゃあ、後で。

質問を進めます。

次に、35 人学級について質問したいと思います。

（モニター使用）今現在、小学校で 1 年生から 6 年生までクラスが 139 クラスあるわけ

ですけれど、こっちの合計はちょっとカットしているんですけれど、139 クラスあります。その中で、15 クラスが 35 人以上のクラスです。

御船が丘小学校の 3 年生とか、山内西小学校の 1 年生。山内西小学校の 3 年生、1 クラスですね。小学校 4 年生では御船が丘小学校 3 クラス、朝日小学校 2 クラス、山内西小学校 1 クラス。小学 5 年では朝日小学校 2 クラス、小学 6 年では御船が丘小学校 3 クラス。

139 クラスの中で 15 クラスあるわけなんですけれど、訴えたいのは、特に小学校 3 年生のクラスをですね、——以前にも申し上げましたけれども、小学校 1 年生は、国の制度として 35 人学級以下のクラスが進められているわけです。ところが、2 年生以降順次、国は 35 人以下学級を取り組むというふうになっているわけなんですけれど、それがなかなか進まない。文科省は要求していても財務省がオクケーしない。

そういう中で、小学校 2 年生については、県の負担でこの 35 人以下学級を進めていると。全国的には、以前にも申し上げましたけれども、47 都道府県の中で半分以上がこの 35 人以下学級を取り組んでいると。そういう中で佐賀県がなかなか今進んでいない。

特に武雄は、新しい武雄の教育ということで取り組んでおられるわけなんですけれども、私は小学校 3 年生、何としても 35 人以下学級を来年度以降、取り組むべきだと。

たまたま国語の——学ばなければならない数が、私たちのころは、小学校時代 181 字を覚えるようになっていましたけど、今の子どもたちは 1,006 を覚えなければならない。さらに 4 年後は、——ああ、平成 32 年ですから 2 年後はですね、さらにふえて 1,026 字、学ばなければならない。国語でも算数でも、本当に学ぶ量がふえていってると。

そういう中で、子どもたちの本当に行き届いた教育を進めていく意味でもですね、小学 3 年生曲がり角と、それぞれあろうかと思えますけれども、——小学校 3 年生、この 35 人以下学級、特に山内は分校が 3 つあるわけですが、1、2 年生のクラスは本当に 20 人前後。ところが 3 年生になると、分校と本校が一緒になりますので、最近ずっと小学校 3 年生になると 39 人。

たまたま山内東は 46 名で、今回 2 クラス。大体 40 人前後。41 人になると 2 つになるからですね、2 クラスになるからいいんですけれど、40 人だったら 1 クラスだと。

そういう意味も含めて、教育長にも何回も申し上げておるんですけれども、改めて受けとめていただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

3 年生での 35 人以下学級ということでございますが、さっきお話にありましたように、現在、小学校で 36 人以上の学級が 3 年生以上で 12 学級ございます。4 校でございます。

中学校で 1 年生は配置がありますので、2 年生、3 年生だけですけれども、これで 15 学

級ほどございます。小学校のこの4校につきましては、T T少人数の加配が、配置が4校で7名いらっしゃいます。

3年生にびしっと充てるというよりも、各学校で7名の先生方に一番必要な学級に必要な指導に入っていただくというようなことで活用をしてもらっております。同様に中学校でも4校で6名の配置があつてゐるわけでありまして。

そういうところで、現在対応をしているというところでございます。

そういうことで、現在のところ35人以下学級ということについては、市で独自に考えるという考えは持っておりません。

○議長（杉原豊喜君）

20番江原議員

○20番（江原一雄君）〔登壇〕

今まで教育長、答弁されていることと全く一緒なんですけれども。

そういう現場の配置は一方であらうかと思ひます。と同時に、本当に長い目で見て国の制度として本来やるべき課題なのに、そういう形で、T Tという形で先生を配置されているわけなんですけれども、本来のシステムとして国がやるべきこの35人以下学級、あるいは30人、本当に先進国の中で、少人数学級って今言われておりますけれども、この制度を本当に取り組もうという声を教育長の立場で、長い目で、やはり県や国に対しても、また、教育長会等の中でもそういう声を取り上げて要求していくと。

私は、それは一方で、当面の問題、T T選んであるわけなんですけれども、長い目で35人以下学級、あるいは30人以下学級を進めて、行き届いた教育を進めること、それは教育の本望だと思いますけれど、教育長いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

国家的な計画でありますので、文部科学大臣にでも言っていただければと思うんですが。

35人というところで、私たちの小さいころを考えると、随分こう減ってはきているわけで。今さっき申しましたように、一番有効な形としてT Tの少人数加配という形で学校に対応していただいていると。

もちろん、これは35人になれば、それはそれでまた考えなければいけないと思いますが、その分、財政的なものもございまして。そういうことで現在の状況かというふうに思っております。したがって、現在のところ、その加配の対応でできているというふうに思っております。

したがって、今お話しのように、私のほうから申し上げるという予定は、今のところはございません。

○議長（杉原豊喜君）

20 番江原議員

○20 番（江原一雄君）〔登壇〕

国や県の制度として 35 人を超えた場合、T T 少人数加配という道を、まあ、どちらを選ぶかということで、そっちを選んでいるということを答弁されましたけれど、大体、新卒の先生で年収 300 万円として、小学校 3 年生、先ほど私 4 クラスと言いましたけれど、三四—1,200 万円そういう選択をして、やっぱり長い目で見て、武雄でもやる、県や国に対しても、そういう少人数学級制度を求めていくという立場を求めておきたいと思えますし、国会の文教科学委員会の中でも、——当時、委員会の動画を見ていましたら、文科大臣としてはやりたいと、そういう声を答弁されておりましたし、私は、それはやはりそういう立場で地方の教育に携わる皆さん、先頭になって教育長も声を上げてほしいということを申し上げておきたいと思えます。

2 番目の国保問題についてお尋ねをします。

この 4 月から、御存じのように、財政の運営主体が都道府県化という形で一本化が実施をされました。

これまで市町村が国保を単独で運営していましたけれど、これから市町村と都道府県が共同で運営する制度となったわけです。

さきに報道されておりましたけれど、国民健康保険に関する佐賀県と市町の実務者会議が佐賀市で開かれたと報道されています。その内容についてお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

岩瀬福祉部長

○岩瀬福祉部長〔登壇〕

国保の担当の実務者会議ということですが、これは実務者会議は一本化の前から定期的に行われているものでございまして、今回ございました会議につきましても、今、各市町ごと保険料率が違っていますので、そういうことの統一化に向けての話し合いが進められているというふうに聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番江原議員

○20 番（江原一雄君）〔登壇〕

この間、この国保問題については、さきの 3 月議会でも質問しましたし、この間、本当に都道府県化の一本化というのが本当に加入者にとって歓迎すべきものなのかなわけです。

ここの報道の中でありましたように、平成 30 年度以降——31 年以降、今後どう移行するのか、推移するのか、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

岩瀬福祉部長

○岩瀬福祉部長〔登壇〕

31年度以降についてという問いですが、現在30年度が始まったばかりでございます。

なお、先ほども言いましたように、保険料率につきましては、市町ごと、まだ一本化しておりません。これにつきましても紆余曲折がありまして、これから5年、もしくは10年かかるという話も聞いております。

ただ、運営につきましては、大きな組織になったということで、スケールメリットを生かした保険事業、そういうのを率先して進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番江原議員

○20番（江原一雄君）〔登壇〕

部長が言われるように、スケールメリットが大きくなったから、じゃあ加入者の負担が減るか。減るんですか。いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

岩瀬福祉部長

○岩瀬福祉部長〔登壇〕

加入者の保険料が減るかという問い合わせなんです、これにつきましては県で一本化で、いろいろな保険事業を推進していった医療費を下げる、そういう事業を取り組めば、おのずと医療費が下がってくると。そういうことになれば保険料も下がるのではないかとこのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番江原議員

○20番（江原一雄君）〔登壇〕

国保の都道府県一本化が、スケールメリットが大きくなって、いろいろ保険事業やって加入者の負担が減る。結構なことだと思いますが、そうならないのではないかとこの危惧をする一人です。

今現在、武雄の国保会計に一般会計から1億円繰り出している。こういうのをなくしたら、途端に加入者の負担がさらに大きくなる。合併して5回、この国保税引き上げざるを得なくなった、そういう状況です。

その原因はですね、――以前、申しあげましたけれど、全国知事会は1兆円の交付金、図るべきだということを申しあげましたし、昨年の全国知事会が国の施策並びに予算に関する提案、要望の中で、医療保険制度改革の推進について要望がされております。国の税率負担の引き上げを掲げておられます。昨年7月28日付、全国知事会のホームページにも載っています。



私は、この地方団体の願いと同時に、私たちが平成 26 年 6 月議会で国民健康保険事業運営に係る国の財政支援を求める意見書を可決しています。

その内容は、給付と負担の公平化を実現するためには国による一本化を図るべきだということをお願いして、意見書を政府のほうに、国会にも届けているわけですが、ここで言う保険制度の一本化、これについて、本当に今この声を上げていかないと、国民健康保険の都道府県化、一本化が、さらなる国保の負担になるのではないかという危惧をする中で、本当にそういうせば詰まった状況になっているのではないか。私もこの選挙戦の中で、本当に国民健康保険税の負担で窮状を声にするわけです。

その一つに協会健保の負担と、国民健康保険の負担、これが、この格差が大きいわけです。この格差を全国知事会が言っているように 1 兆円以上の交付金の負担、このことを声を大にして訴えていくべきではないかというふうに、改めて今度の質問を準備する中で受けとめているものです。

その点で、部長を含めて市長にも、こういう全国知事会の考えを、本当に地方 6 団体、力を合わせて、そういう声を起こしていく。その先頭に武雄市長も取り組んでほしいと、その認識を伺いたいですが、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

岩瀬福祉部長

**○岩瀬福祉部長〔登壇〕**

先ほど議員がおっしゃられたように、昨年 7 月 28 日、全国知事会から要望、提案書が出されております。

並行して全国市長会でも、平成 30 年 6 月 6 日、第 88 回全国市長会の中でも支部提案ということで、国保に対する財政支援というのも行っておりますので、議員と考えは同じかなというふうには思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

今、全国知事会と同様に、やはり国保制度はもう制度的な問題だと。国全体でやはり解決していかなければいけないという意識で、先ほど部長からも答弁がありましたとおり、全国市長会においても、国に対して要望、決議をしているところであります。

これは共産党から言われたからやっているわけではなくて、やっぱり地方自治体の総意として、国が制度的な解決をすべきだろうと、それに基づいて要望をしているというふうに認識をしております。

**○議長（杉原豊喜君）**

20 番江原議員

**○20 番（江原一雄君）〔登壇〕**

市長、何か私が、——もちろん共産党籍を持っているわけですけど、——私が言うてるからとか何かじゃなくて、この問題は本当に党派を超えて、市民国民の健康と暮らしを守り、命を守ると、その立場の認識をより深めて、この制度をよりよいものにしていくんだと。それは思想信条の問題じゃないんですよ。（発言する者あり）私はだから、——何かね、ちょっととげがあるような受けとめを市長がおっしゃるから。

私は、今はこの国民健康保険問題、本当に毎回、毎回、私は取り上げているわけですけど、本当によりよい制度にするために、この保険の一本化というのは、そういうときに来ているんだという認識をお互い共有、受けとめて、市長もその立場で全国市長会の中でも大いに、私も私の立場で、議員の立場で大いに取り組んでいきたいと思えます。

次に、3番目の環境行政についてお尋ねをします。

モニター消しとってください。

平成7年に容器包装リサイクル法が施行され、容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律、この第1条に、この法律は容器包装廃棄物の排出の抑制並びにその分別収集及びこれにより得られた分別基準適合物の再商品化を促進するための措置を講ずること等により、一般廃棄物の減量及び再生資源の十分な利用等を通じて、廃棄物の適正な処理及び資源の有効な利用の確保を図り、もって生活環境の保全及び国民経済の健全な発展に寄与することを目的とする。

私、本当に、立ち返って思いますと、本当に資源を大切にする、その思いがここに掲げられているわけです。ところが、武雄市が取り組んできたこのプラスチック容器包装のリサイクルを中止されるようになりました。

5月の新聞投書の中で、分ければ資源の分別精神はどこにという投書を私も読みましたけれど、本当にこの方の書かれている思い、議員として責任を感じた一人であります。

この市民の間で、いろんな声があるわけですけども、こういう声に対して市長はどのように受けとめておられるか御所見をお伺いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

プラスチックの分別については、処理費用の問題とか、あと煩雑さ、そういった点がございました。リサイクルにおいても約7割が燃料エネルギーになるということで、では西部クリーンセンターで有効活用しようということで、昨年12月議会で条例議案として出ささせていただきました。議会の皆様に全会一致で承認をいただいたところであります。

したがいまして、全会一致というところがございますので、やはりそこはなぜこういうことをしたのか、その部分について、ぜひ江原議員も市民の皆様にも御説明いただければとい

うふうに思っておりますし、リサイクルについては、ほかにもペットボトル等は進めておりますので、そちらについては引き続きPRをしていきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番江原議員

○20 番（江原一雄君）〔登壇〕

私も、だから申しあげましたように、責任を感じている1人なんですけれど。

このアンケート、あるいは意見を聴取する――議員は議案が一本で説明があつて、採決するわけなんですけれど、この手順の問題で、本当にこのプラスチックの容器回収まで、この制度を取り入れるとき、そしてまた、廃止するとき含めて、本当に市民のそうした要望をいかに受けとめて進めてきたかどうか問われているんじゃないかと私は受けとめています。

ですから、当時、説明があつたときに、ある団体へお聞きしたと。私はやっぱりそれだけでは足らなかったんだなど。やはり制度を導入して、制度を廃止する場合には、やはり本当に市民のさまざまな声を取り上げて説明をし、そこに説明責任が求められるわけなんですけれども、そういうものが、手順が必要なんだということを改めて感じた思いで取り上げているわけです。

私は、――今、市長言われましたけれども、そういう手順について瑕疵はなかったのかどうかということをお尋ねしたいと思いますが、いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

高倉まちづくり部理事

○高倉まちづくり部理事〔登壇〕

今回のプラスチック分別の廃止でございますが、廃止までの経緯としましては、十分市民の意見を聞きながら今回の廃止に至ったわけでございます。

中でもこのプラスチックの分別については、非常に煩雑でございまして手間がかかるという状況の中、市民からもこの廃止に向けて要望があつているところでございます。

今回の廃止に当たっては、ほとんどのリサイクルの行き先が燃料エネルギーということで、燃料エネルギーであることを加味しながら今回の西部クリーンセンターに持ち込み、可燃ごみとして熱回収をして発電をする、そして、サーマルリサイクルとして有効活用ができるということで判断したところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

20 番江原議員

○20 番（江原一雄君）〔登壇〕

そういうお答えに対して、本当に素直に理解していただけるかどうか、私は疑問を感じております。その点で、本当に再検討も含めて考えるべき問題ではないかと、改めて思っています。

4番目の農政についてお尋ねをします。

ことしから、今——モニターをお願いします。

(モニター使用) これは、今、武雄市内各地で土曜、日曜、きょう月曜日です、雨も降って一斉にお米づくりで水をためて田植えが始まっています。

私は農家の一人としてもですけど、ことしの、平成30年産のお米から、減反奨励金、いわゆる交付金が廃止になりました。

この減反制度が取り組まれたのが1971年、昭和46年、あれ以来、約50年近くになるわけですけども、いよいよ日本のお米がどうなるんだろうと、——さきの一般質問の中でもありますけれど、農村の人口減少含めて、地域の衰退、本当に心配している。

そういう意味でも、ことしのこの減反制度の中で交付金が減らされる。武雄市内でこの交付金が減らされた場合、昨年度と比べてどれだけの減収になるかお尋ねしたいと思います。

**○議長(杉原豊喜君)**

松尾営業部理事

**○松尾営業部理事〔登壇〕**

米の直接支払交付金でございますが、米の生産数量目標に従って生産した販売農家または集落営農を対象として米の作付面積に応じて交付されてきました。

平成29年度の武雄市全体での交付総額でございますが、9,840万円でございます。30年度につきましては、同額程度が減収というふうなことになると思います。

**○議長(杉原豊喜君)**

20番江原議員

**○20番(江原一雄君)〔登壇〕**

私はこの影響が、さまざまな形で広がるんじゃないかなと思います。

特に集落営農、あるいは農業生産法人、いわゆる大規模農家にとっても大きな減収になるんじゃないかなというふうに思わざるを得ません。

そういう意味では、武雄のこの米の収入が、これまでデータで出していたいただいた農業生産で、米で14億、農業生産総額で50億。私は、本当に農業の中で米を守るこの意味は、集落共同体含めてそれを維持する、その源ではないかなと思いますし、特に国連が来年から10年間、家族農業の10年ということで、世界的に家族農業の重要性を啓蒙していくという活動が広がろうとしています。そういう流れを大いに力にしながら、今後とも農業の発展のために頑張っていきたいと思います。

時間がありませんので、後日の質問に、譲らしながら、最後の、市長の政治姿勢についてお尋ねをします。

非核平和都市宣言について、これまでも、昨年9月にも質問をしました。

今、報道されているように、あした米朝会談という、世界的な、歴史に残る出来事が、

会談が予定されているようです。世界と北東アジアを取り巻く情勢が大きく変わろうとしています。

私は昨年、非核自治体協議会や平和首長会議に加盟されているから参加すべきと求めてまいりましたが、この会議は4年に1回ということでした。

(モニター使用) ここにある、モニターにある、この非核平和都市宣言、北方支所の旧北方役場——旧北方支所の玄関の右側に、非核平和宣言都市として武雄市の看板が掲載されております。

私はこの、平成 18 年 3 月 1 日に決議した非核平和の都市宣言に基づいて、この看板をまず新庁舎の中に検討すべきだと、移動するべきだとお願い申し上げたいと思いますけれど、市長の認識はいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

看板の設置ということでございますけれども、武雄市は平成 18 年 6 月に、市議会において非核平和の都市宣言が決議されまして、非核宣言自治体になっております。

御紹介のとおり、旧北方支所には非核宣言自治体の看板が設置をされておりますけれども、新庁舎におきましては、例えばデジタルサイネージを用いてこれを周知する、8月の広島平和記念日、それから、ながさき平和の日、こういった日を含む期間に、この平和に対する取り組みについての広報をデジタルサイネージを使って行いたいというふうに考えております。

今のところモニュメントや看板の設置は予定はしておりません。

○議長（杉原豊喜君）

20 番江原議員

○20 番（江原一雄君）〔登壇〕

デジタルをちょっと説明してください。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

市民ホールに、新庁舎 1 階の市民ホールに、市の行政の看板のいろんな広報ができるような、デジタルサイネージという電子表示の広告板を設置しておりますので、その機能を用いて広報をできればというふうに考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

20 番江原議員

○20 番（江原一雄君）〔登壇〕

この北方に掲載されているこの看板については、私、申し上げましたけれど、これをこのままにしておくわけですか。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

特に廃止をするという、撤去をするというような予定は持っておりません。

○議長（杉原豊喜君）

20 番江原議員

○20 番（江原一雄君）〔登壇〕

本当に、1980 年代だったと思いますけれど、——全国で8割を超える、ほとんどのといえますか、自治体でこうした非核平和の都市宣言づくり、非核平和のまちづくり、——本当にあの当時、30 年ぐらい前ですけど、アメリカのトマホークの開発が米ソの冷戦のもとで本当に一触即発。そういう中で、地方レベルから、広島、長崎の呼びかけにありますように、こういう運動が広がっていったわけです。

その点を考えても、北方町、山内町、武雄市でも、こういう非核平和宣言の活動が大いに広がっていった。それを財産として、これを大いに中心部に持っていくと。あるいは文化会館の西側のほうにも、旧武雄市ではモニュメントが掲載されております。

そういうことを踏まえて検討すべきだと思いますが、いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

今、議員からも御紹介がありましたとおり、県内 20 市町すべてが非核宣言自治体ということで宣言をしております。

今現在、北方町、あるいは文化会館にもそういったモニュメント、看板等を設置しておりますので、新庁舎におきましては、先ほども申しましたサイネージ、あるいは市の広報、市報等を通じて、そういった広報を展開してまいりたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番江原議員

○20 番（江原一雄君）〔登壇〕

ぜひ新庁舎の落成とあわせて、この取り組みを重要視して、移動するべきだということを申し上げておきたいと思います。

次に最後、行政文書について質問したいと思います。

図書館・歴史資料館のリニューアル改修が6年前、9月補正で4億5,000万円計上され、進められてきました。

その中の、新図書館サービス環境整備業務委託、当初予算 2,056 万円に対して、平成 27 年 9 月 11 日付で、浦郷教育長名で武雄市図書館リニューアルオープン時の蔵書購入について釈明文が発表されました。

これについて私は、平成 27 年 12 月定例議会の一般質問で武雄市の財務会計規則 25 条、26 条について予算流用申請書、支出命令書、決裁文書、予算流用要求書等の提出を求めました。しかし、係争中との説明で提出されていません。

ところがこの間、2年5カ月を経過していますが、とうとう6月22日公判が行われるわけですけれども、私が申し上げたことが裁判で証人尋問が行われる運びとなっているようがあります。

毎回傍聴して、その推移を見てまいりましたけれども、その当時、教育長は市議会を初め、関係各位に対して十分に御説明を果たせなかったことに関して教育委員会としておわびいたしますと述べておられます。

こうした経過を踏まえますと、ちゃんと説明すべきだと、議会に対しても、市民に対して説明すべきだということを申し上げたいと思います。

(モニター使用) ここに、モニターに掲げているのは、この間、図書館費が、合併するとき、平成 18 年、1 億 2,000 万円でした。それが、紛れもなくリニューアル後、約 10 億、リニューアル改修費、こども図書館費、そして毎年、今から約 2 億二、三千万の図書館費が計上されるようになっているわけです。私は、来場者が多いというだけではなくて、一方でこういう予算の変化が行われています。

本当に図書館が教育施設として、ふさわしい施設として運営する上でも、このリニューアル時の説明責任はちゃんと果たすべきだと申し上げたいわけですが、御答弁いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

山口こども教育部理事

○山口こども教育部理事〔登壇〕

答弁については現在も変わっておりません。

係争中の事項であり、答弁は控えさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

20 番江原議員

○20 番（江原一雄君）〔登壇〕

私は——係争中だということ——やめる。

時間が来ましたので、以上で質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で 20 番江原議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 14時10分